詳細分布調査報告書

加茂町の遺跡

―― 赤川以南 ――

平成２年３月

島　根　県

加茂町教育委員会

発 刊 に あ た っ て

農耕主体の町も、時代の趨勢によって兼業化が進み、生活環境も大きく変ってまいりました。

古代からの地域の変遷は、様々な形態で現代に伝えられていますものの、記録的保存など確証あるものは少なく、その上、生活様式の近代化が急激に進むむにつれて、代々承け継がれてきた口伝も失いかけています。

本町では、町内に分布する遺跡の実態を調査し、郷土の歴史を解明するとともに、先人達が築きあげた郷土の遺産、足跡を知ることにより、町民の文化財保護の認識を深め、更に後世に伝えようと国庫補助事業による文化財遺跡分布調査に着手しました。

昭和62年度には、貴重な遺跡が発見された神原地区の調査を了え、今回は町の南半分の地域と、中世の城郭であった高麻山城の一帯を調査することとし、残る北半分は次年度に調査を計画しています。

以上の調査が完了することにより、本町内に分布する遺跡等の概要が明らかとなり、今後地域の開発と文化財の保護、管理の調和が図られ、町の発展に大きく寄与するものと期待しております。

おわりに、神原地区に引き継いで調査を担当して頂きました調査員の皆様、並びに御協力頂いた関係地区の方々の御労苦、御協力を謝し、更に御指導を頂いた蓮岡法暲先生、島根県教育委員会に対し深く感謝申し上げます。

平成２年２月

加茂町教育委員会

教育長　　太　田　　潔

例　　言

1. 本書は加茂町教育委員会が、平成元年度国庫補助を受けて実施した加茂町内赤川以南区域（神原地区を除く）遺跡分布調査の報告書であり、昭和62年度神原地区分布調査を継承するものである。

2. 調査の体制は次のようである。

調査主体者	加茂町教育委員会　教育長　太田　潔
調査指導	鳥谷芳雄（島根県教育庁文化課文化財保護主事）
	蓮岡法暲（島根県文化財保護指導委員）
調査担当者	杉原清一（島根県文化財保護指導委員）
調査補助員	藤原友子（飯石郡三刀屋町）
事務局	杉原佳林（加茂町教育委員会係長）
	（前任）　金築暎次（加茂町教育委員会次長）
	杉原顕道（加茂町教育委員会社会教育指導員）

3. 調査成果は分布図及び一覧表としたほか、個別に調査カードを作成し向後の活用に備えた。なお遺跡番号は島根県遺跡地図（1987）に拠った。

4. 収録した遺跡のうちには既に消滅したものも含む。また古墓は石塔に着目して調査を行った。

過年度報告区域（神原地区）について、その後発見の遺跡は本書に追加収録した。

5. 分布調査は踏査によるもので、地表の表徴観察であり、埋蔵文化財のすべてが網羅されているとはいえない。従って分布図上の空白地でも将来発見されることが有り得る。

6. 踏査にあたって明治22年編成の字切地図による小字地名（加茂町誌所載）及び口碑伝承等も参考とした。また次の方法をはじめ多くの方から協力や情報・資料の提供を受けた。記して謝意を表します。

調査区域内各自治会　大東町教育委員会

舟木義信　　多田納哲道　　秦松次郎　　宮川昌彦　　末次久滋　　西川保市

藤原政吉　　渡部　薫　　渡部一弘

7. 本書に用いた地図は主として加茂町開発課所管に関わる地形図である。

8. 本書の編集・執筆は調査者が行った。

目　　次

序　文 …… 教育長　太田　潔
例　言

遺跡分布地図(1)～(8) …… 2
遺跡一覧表 …… 10

I　遺跡の分布概況 …… 13
II　主な遺跡 …… 14
　1．縄文～弥生時代の遺跡 …… 14
　2．古墳・横穴 …… 15
　3．中世の城砦 …… 18
　4．中世の古墓 …… 24
III　神原地区遺跡補遺 —沢平横穴群— …… 27
　神原地区遺跡一覧表（再録）

小字地名一覧（赤川以南） …… 33
図版　（ＰＬ１～６）

挿図目次

図１　石器 …… 15
図２　三代古墳出土遺物(1) …… 16
図３　三代古墳出土遺物(2) …… 17
図４　平山横穴出土遺物 …… 18
図５　高麻城跡縄張図 …… 19・20
図６　近松城跡 …… 23
図７　石塔図 …… 25
図８　沢平横穴群(1) …… 28
図９　沢平横穴群(2) …… 29
図10　沢平横穴群出土遺物(1) …… 30
図11　沢平横穴群出土遺物(2) …… 31

遺跡数の集計

大字	散布地	古墳・横穴	城砦・館跡	古墓	生産遺跡	寺社跡	その他	合計
立原		1(1)	2	2				5(1)
近松			2(1)				1	3(1)
大西			2(1)	1		1		4(1)
南加茂	2	1	2		2(1)		1(1)	8(2)
宇治		2(1)		1			1(1)	4(2)
三代		3(2)	2(1)	4(1)	4(4)	1		14(8)
計	2	7(4)	10(3)	8(1)	6(5)	2	3(2)	38(15)

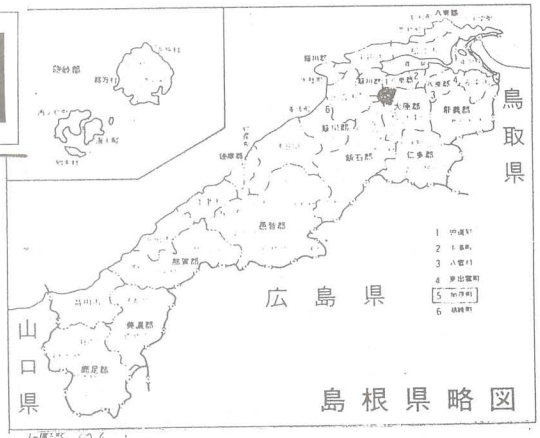
補遺　大字神原……横穴1

(　)は既知数

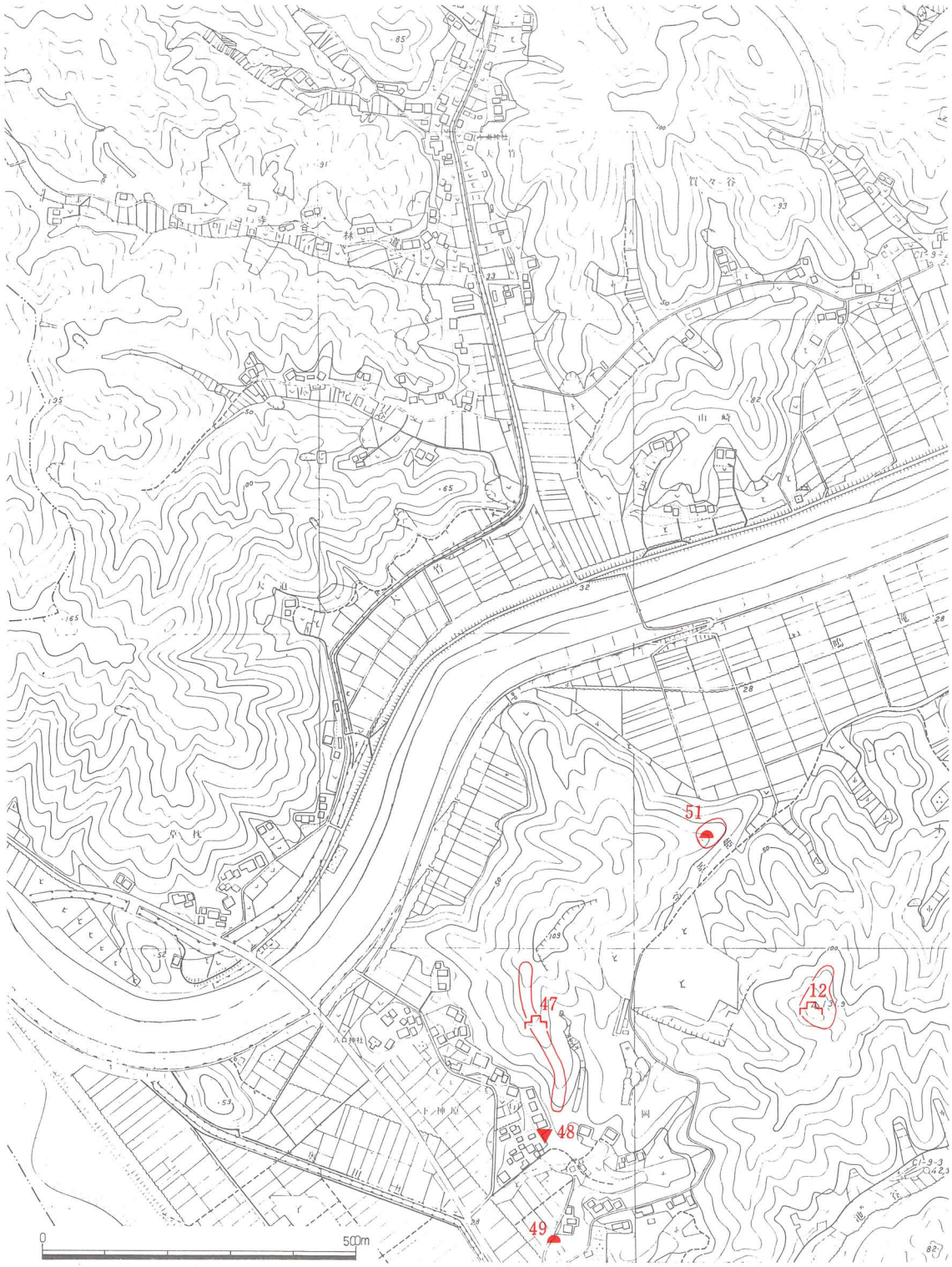
記号説明

- ● 遺物散布地
- ◓ 古墳・横穴
- ⊓ 城砦
- ▼ 古墓
- ▲ 生産遺跡
- 卍 寺院跡
- ■ 神社跡
- ◉ その他

加茂町全図

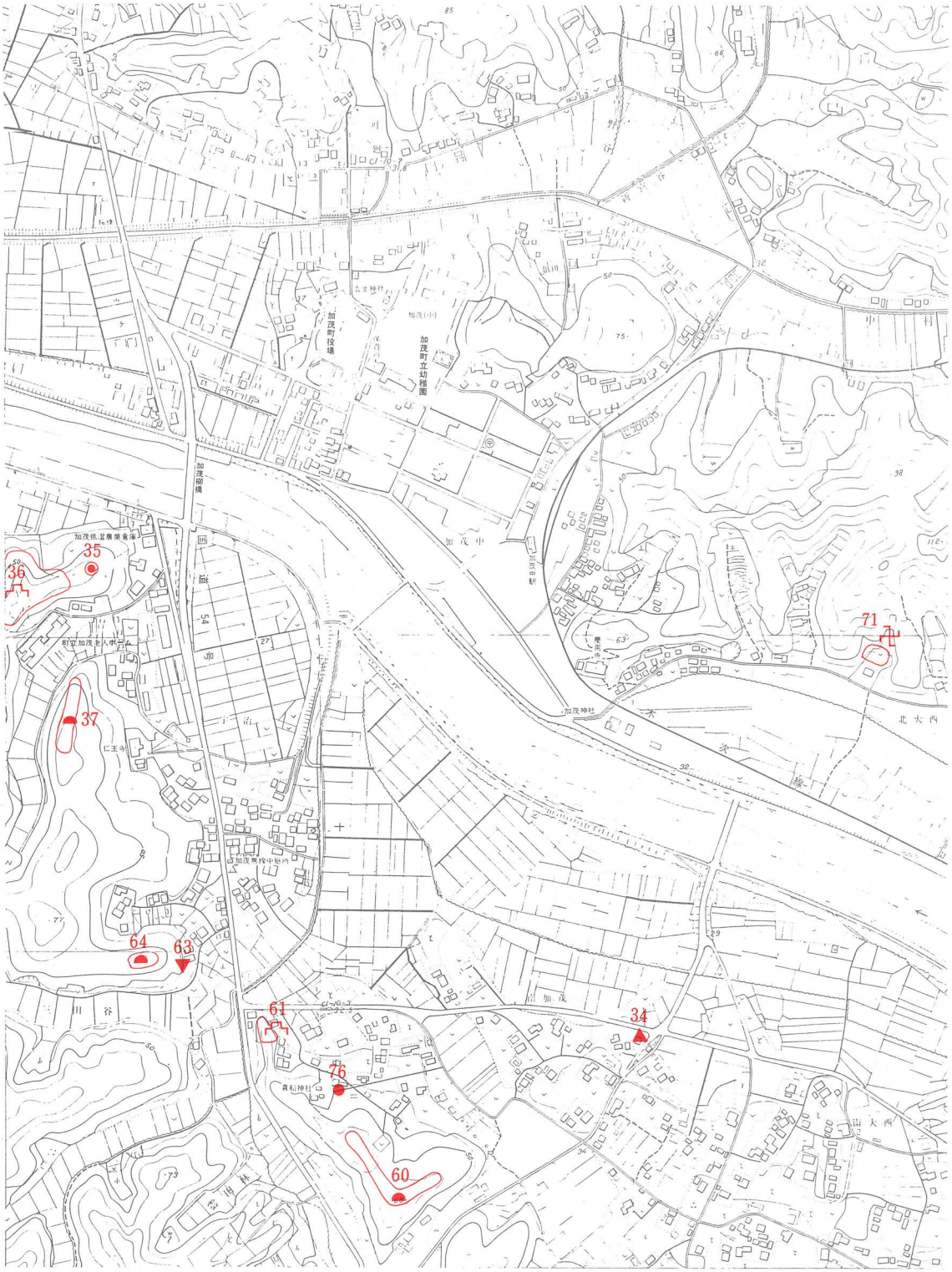

鳥取県
広島県
山口県
島根県略図

N
宍道町
斐川町
大東町
出雲市
三刀屋町
木次町
至しんじ
至木次
1
2
3
4
5
6
7
8
1:50,000
0
500
1000
2000
3000
4000m

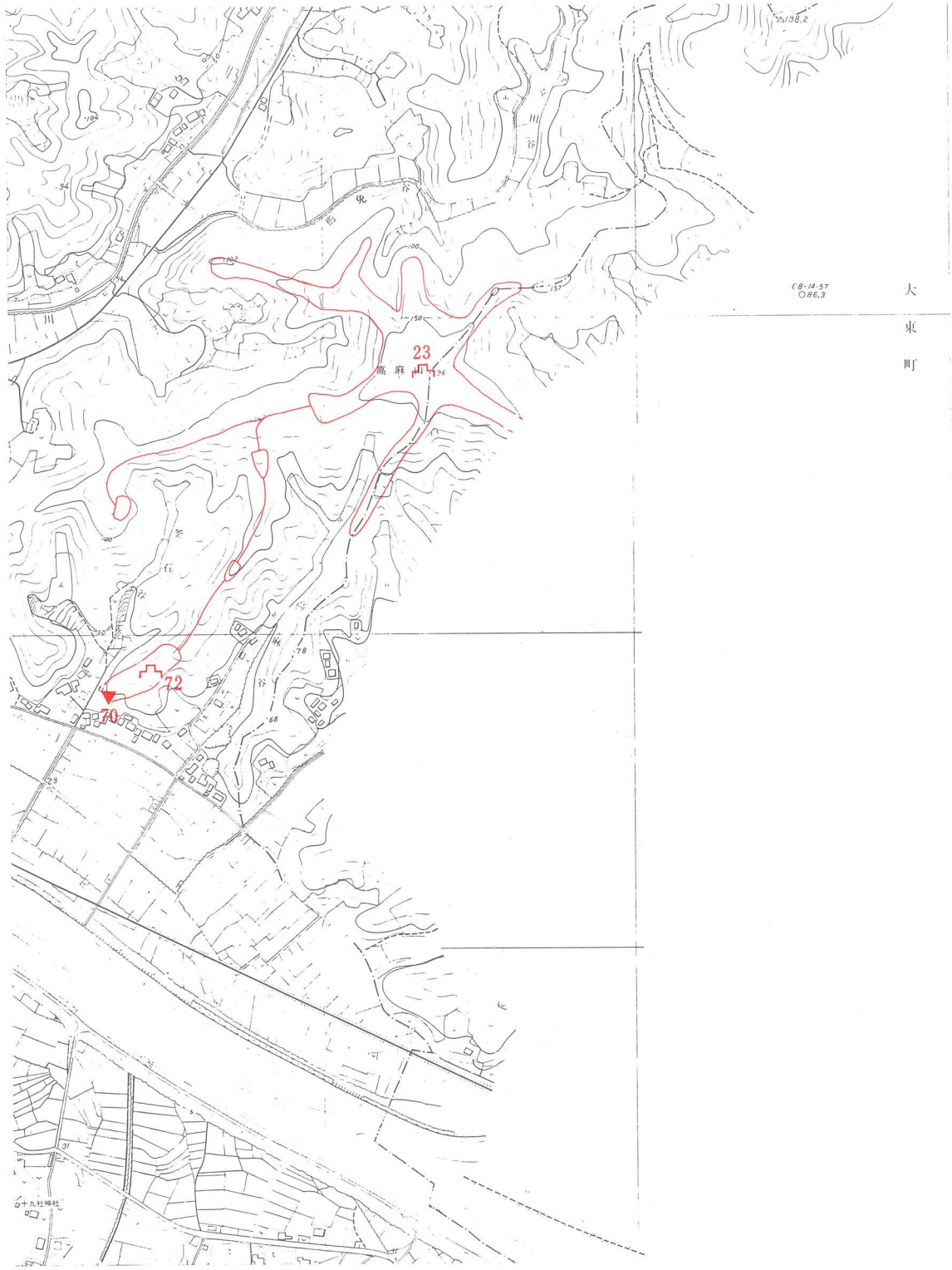


分　布　図　(1)

分　布　図（2）

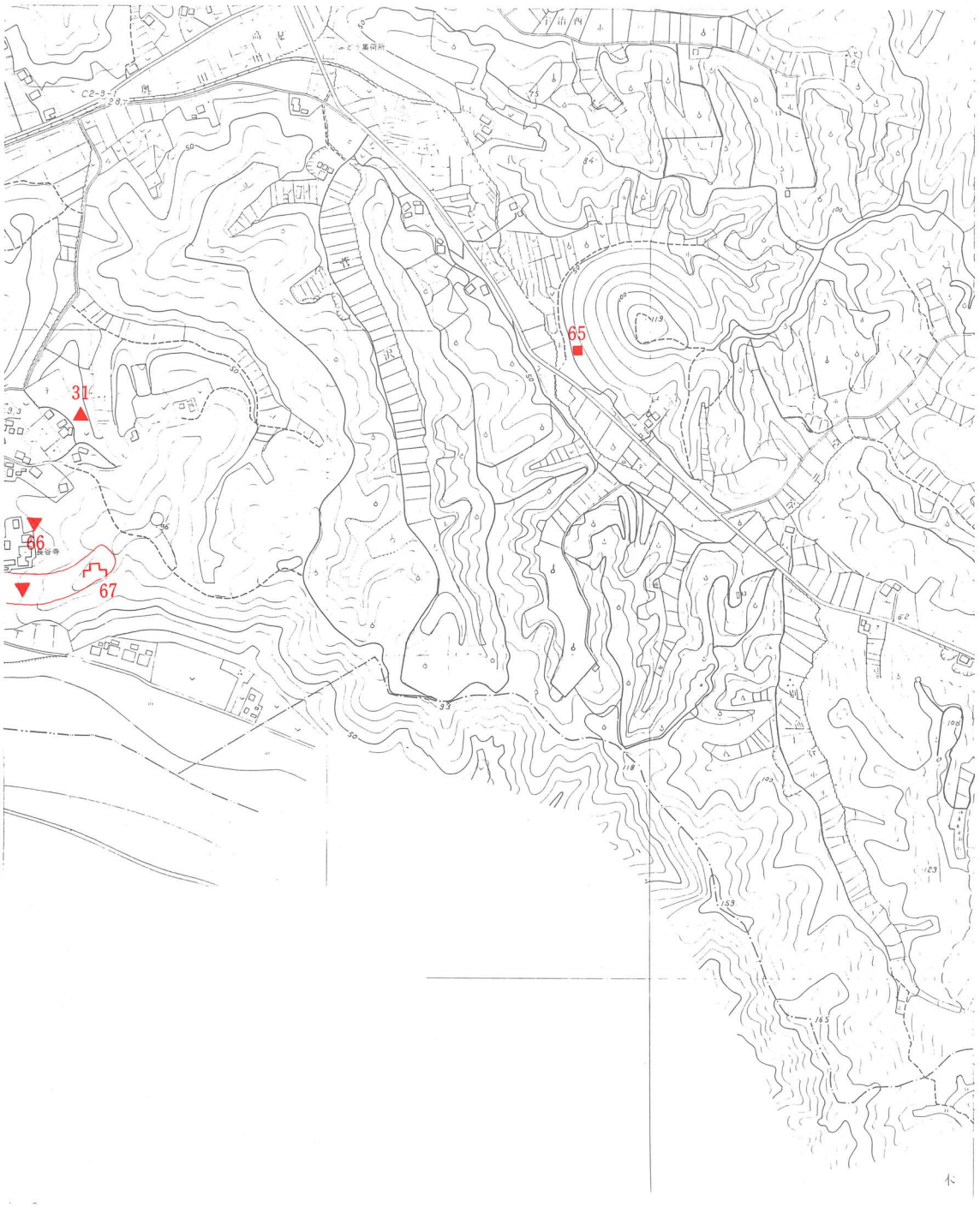


分　布　図（3）

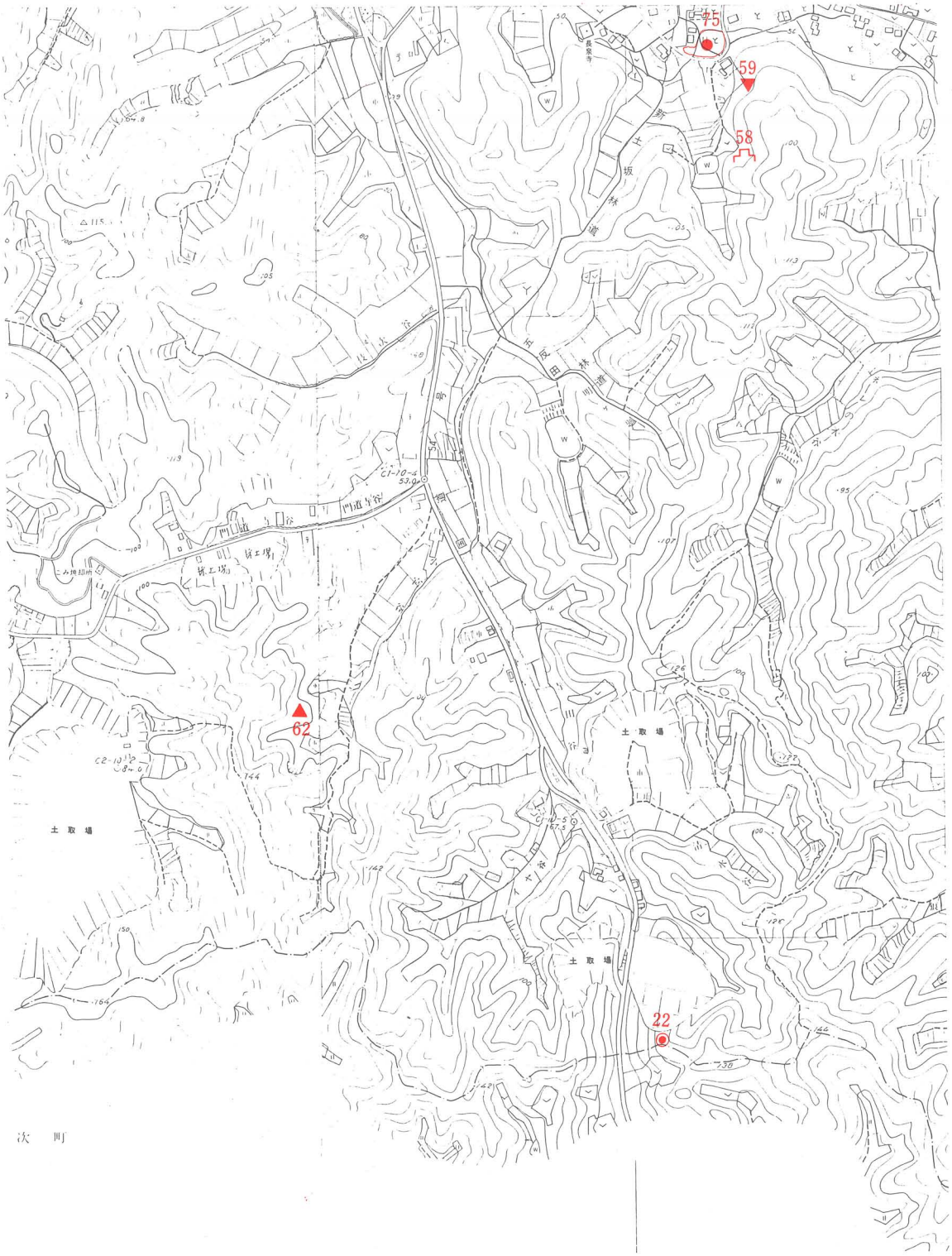


分布図 (4)

分　布　図　(5)



分　布　図（6）



分布図 (7)

分布図（8）

遺跡一覧表

大字立原

遺跡番号	名称	種別	所在地(字)	現況	概要	文献
9	平山横穴群	横穴	平山・大東町	山林(崖)	大東町との境界尾根端近く、崖面に4穴の痕跡あり　ほとんど消滅　大正8年須恵器(Ⅳ期)出土	7
53	寺ノ上砦跡	城砦	寺ノ上	社地	立原集落を見下ろす丘陵端　1郭の物見砦跡　現在大仙権現を祀る	
54	伝立原館跡	居館跡	松ヶ廻	荒畑	低丘陵で囲まれた〝イゴ〟地形　50×20m1段の平面　立原館の一部か？	6
52	荒神廻古墓群	古墓	荒神廻	荒畑	現代の墓地群中に五輪塔集石墓あり　立原一族の墓と呼んでいる	
55	寺ノ上古墓	古墓	寺ノ上	町道	妙栄寺裏道端にあり　道路改良で出土したもの　五輪塔	

大字近松

11	近松城跡	城砦	城山・向山他	山林	主郭群・西郭群計19部残存　東郭群消滅　輪郭式　立原氏の居城と伝う　比高40mの丘城	1、8、39
57	宮山砦跡	城砦	宮山	社地	近松城の西の見張りか　10×10mの削平地あり　愛宕社あり	
56	八ッ畦古戦場跡	古戦場	八ッウ子・木次町	山林	〝クマンドサン〟と呼ぶ、熊野入道西阿戦死の地と伝う	2、3、10

大字大西

23	高麻城跡	城砦	高麻・根古山・他	山林	大東町界の山頂を主郭とし、両町にまたがる900×500mに郭郡配置　比高約150mの代表的な山城　張出し砦として小門谷砦などがある　築城は大西十兵エと伝えている	1、2、3、5、6、8、9、10
72	小門谷砦跡	城砦	小門	畑 山林	大堀切りで独立した丘端　南へ6段10郭　高麻城の出城か	
70	小門谷の五輪塔	古墓	小門	畑 墓地	小門谷砦地内　やや大型キマチ石製の五輪塔2ヵ所にあり	
71	伝乗光寺跡	寺院跡	寺内	荒地	小谷の奥詰まりの削平段　30×18m　寺跡との口伝あり	

大字南加茂

75	下笹遺跡	散布地	下笹	畑	丘麓台地上端付近　石器(磨石)1　古式土師器・須恵器片散布　集落跡か	
76	南加茂宮下遺跡	散布地	鶴山	社地	貴船社の前あたり　石斧2点出土　詳細不明	

60	三本松古墳群	古　墳	三本松道上へ・他	山林・他	貴船神社後背丘陵上にあり　直径15ｍ１基　10ｍ１基　6～8ｍ３基　円墳	
61	小谷砦跡	城　砦	小谷	山林畑	国道沿いの丘端　堀切りと３段の小郭で物見砦であろう	
58	会下居館跡	居館跡	会下	荒畑	50×20ｍ　２段削平地　山内四郎広道の居か？	6、8
59	上笹古墓	古　墓	上笹	墓地	五輪塔の集積（近世初頭か）	
34	南加茂瓦窯跡					
62	小宮谷製鉄跡	生産遺跡	小宮谷	荒地	吹子羽口・鉄滓出土　崖面に鉄滓層あり　鍛治跡	
22	清水ヶ谷遺跡	古　道	清水ヶ谷	山林	採砂のため消滅	

大字宇治

24－2	神原正面南古墳群	古　墳	正面	山林	神原との界　５～８号方墳　未掘	
37	宇治寺ノ上古墳群	古　墳	寺ノ上	山林	尾根上に方墳４基　辺約10ｍ位　未掘	
64	焼荒神古墳群	古　墳	焼荒神	山林	円墳２基　直径8ｍ・11ｍでいずれもテラスが周る	
36	神原正面砦跡	城　砦	正面	公園	３段の郭　堀切　出砦か　神原との界	
63	焼荒神の五輪塔	古　墓	焼荒神	畑	畑地より五輪塔出土　山裾近くに集積	
35	亀山石積塚	経　塚	亀山	山林	宇能遅社の後背丘陵上　川原礫の集積経塚か？	

大字三代

21	三代古墳	古　墳	矢ノ尻	茶園	横穴式石室　10ｍ位の円墳であったか昭和47年栗園造成で発見消滅　環頭大刀１・鉄斧１・須恵器各種出土	
45	夕目谷古墳	古　墳	夕目谷	山林	谷間の小丘陵上６ｍほどの小円墳１基未掘	
49	高畦古墳	古　墳	岡	墓地	丘陵突瑞　方墳か？　崖面に竪穴式石室の断面が見られる　頂部に荒神を祀る	
12	大茶臼山城跡	城　砦	大茶臼	山林	簡易な小削平面　物見郭　神原との界	2、5、9
47	岡上砦跡	城　砦	竹ノ下	山林	岡集落へ下る尾根道沿いに小削平地８段と竪堀り４本がある	
67	長谷寺上へ砦跡	城　砦	寺内	山林	長谷寺後背丘陵上　少なくとも６段の削平地あり　砦跡か	
48	大上横古墓	古　墓	岡ノ前	墓地	宝篋印塔（永禄６銘銅板納入）龕入宝篋印塔（江戸初期逆修の塔）五輪塔片などあり	2、3
66	長谷寺古墓	古　墓	寺内	墓地・他	長谷寺墓地ほかに五輪塔・宝篋印塔片が点在する	
68	矢ノ尻古墓	古　墓	矢ノ尻	墓地・	長谷寺の旧跡と伝えられる　五輪塔片多数集積	

69	本岡田墓地の石塔	古　墓	大津	墓地	龕入宝篋印塔独塔２基・双塔１基・龕なきもの２対　他に五輪塔片多数集積	
65	高麻神社跡	神社跡	高塚	社地	８×４ｍの小削平地と急な石段　現在御代社に合祀	４、５
30	楓垣窯跡	生産遺跡				
31	杉原窯跡	生産遺跡				
32	御代窯跡	生産遺跡				
33	御代赤互組合窯跡	生産遺跡				

大字神原

51	沢平横穴群	横　穴	沢平	山林	丘陵上の南面及北面に合計７穴以上　町営危険物処理場工事で消滅　Ｎ１号人骨２体以上　Ｎ２号須恵器　Ｓ１～３号須恵器・土師器多数　尾根上にも須恵器片が散布したか　Ｎ１号平入り他は妻入り三角形の玄室	

文　献

1）野津左馬之助：『大原郡誌』　昭和11年
2）中林季高：『加茂町史考　本文編』　昭和31年
3）編集委員会：『加茂町誌』　昭和59年
4）加藤義成：『出雲国風土記参究』　昭和56年
5）雄山閣：『雲陽誌』復刻本
6）『皇国地誌』
7）加茂町：『加茂町誌』　昭和31年
8）『出雲稽古知今図説』
9）新人物往来社：『日本城郭大系14』　昭和55年
10）『雲陽軍実記』復刻本

Ⅰ　遺跡の分布概況

加茂町は東西6.4km南北6.8kmのほぼ四角形の町域であり、南北に陰陽を結ぶ国道54号線が走り、東から西へ赤川が流れて斐伊川に合流する。

加茂町域では「景初三年銘三角縁神獣鏡」が出土した神原神社古墳が著名であるが、より古い縄文～弥生時代の遺跡はあまり知られていない。古墳時代として斐伊川や赤川沿いの地帯に古墳や横穴が散在し、中世は尼子毛利攻防戦の場でもあることから、東の赤川上流部に城砦をはじめ古墳などがある。

以下本年度の調査区域である赤川以南について概観する。

1.　大字立原・近松・大西地区

東寄りで大東町に隣接するこの区域の古代遺跡は、町境に位置する平山横穴群のみである。

中世には近松庄・大西庄となり、室町期には鞍掛氏のち大西氏か、飯沼氏のち立原氏らの本拠地であり、尼子毛利攻防戦の土地柄から、高麻城跡やその一連の砦跡、近松城跡や古墓などが特徴的といえよう。

2.　大字南加茂・宇治地区

南から張り出す丘陵の突端近く麓の台地上において、かつて磨石と石斧が採取（下笹・貴船社前）され、古くからの人跡を示しているが、その他には地下深く眠っているためか明確な資料が見当らない。

古墳は国道54号線を挟んで、三本松・仁王寺上・焼荒神などの丘陵上に群をなし、近くの神原正面古墳群との関連から古代の繁栄が想像される。

中世には京都加茂神社の荘園である福田庄の一部にあたるが、顕著な遺跡は見当らない。城砦では国道54号線で一部損傷を受けている小谷砦があり、会下には居宅跡が想定され、古墳も散在する。

このほか南の木次町に近い小宮谷には大鍛冶跡があり、花崗岩の母岩に立地する鉄生産の跡が認められる。

3.　大字三代地区

この地区は斐伊川本流に面していて、上記2地域とは立地を異にするところである。

古墳についてみると、高畦古墳はより古い竪穴式石室で半壊している。三代古墳はより

新しい横穴式石室で、多くの副葬品があった。また夕目谷には小円墳がある。隣接する下神原地区の横穴群や大竹の横穴群とも関連するとみられ、赤川最下流域での古代集落が想われる。

中世は三代庄であり、大字神原とともに下笠氏が地頭であった。しかし顕著な城砦は見当らないが、長谷寺裏山と岡集落後背丘陵上には小さい砦があり、いずれも神原地区との関連とみられる。

古墳は長谷寺境内、矢ノ尻、本岡田墓地内、大上横墓地など各所にみられ、特に永禄年銘を伴う大上横の宝篋印塔は貴重であり、また本岡田墓地内の宝篋印塔群は龕入りも多く壮観である。

形姿の良い独立丘である高塚山の西側山腹には高麻神社の跡地があり、山を神体とする信仰が窺われ、「出雲国風土記」所載の社かと思われる。

またこの地区は粘質土の地帯であり、これを用いて近世以降瓦窯が営まれた所でもある。

II．主な遺跡

1．縄文～弥生時代の遺跡

農耕の行われる以前である縄文時代の遺跡は海岸部と山間部に多く見られ、大原郡では大東町や木次町の山間にわずかに知られている。加茂町では明確な遺跡は知られていないが、特に南加茂の丘麓の微高台地地形には存在する可能性がある。この時期の石器が保管されているので下記しておく。

1）南加茂宮下遺跡（図1）

貴船神社に所蔵されているもので、同社の参道あたりから出土したものと伝えられている。1つは刃部約半分で折れたもので、長さ11cm幅6cm厚さ4cm強の磨製で刃部は叩痕が著しく潰れている。他の1点は柄部約半分で折れたもので、長さ12cm直径5cm余りのもの、全面敲打製である。この2点はともに安山岩質の石材でよく似ているが同一個体ではない。

大まかに縄文晩期～弥生時代の品と思われる。この出土したあたりは丘麓の台地上であり、粘質土の上に60cm以上も厚く暗色の表土が堆積していて、この表土中に包含していたとみられるが、現今では土器等の遺物も全く見当らず、遺跡の性格等は判断しかねる。しかし、このような台地上は先例からしても縄文時代遺跡の在る可能性が高い所であり将来付近で遺物・遺跡の発見されることが考えられる。

2）下笹遺跡（南加茂）（図１）

丘麓台地上の畑・宅地地帯に位置し、畑の中を通る農道敷設の際に須恵器や土師器等の土器と共に磨石が１個出土した。

この磨石は13×８㎝の長円形で扁平な玄武岩質の礫である。全面に磨擦痕が強く残り、先端は叩き潰れ、平面や側面には６面もの磨面が認められ、これらの表面は風化している。おそらく縄文時代後晩期頃のものとみられる。

この遺跡の範囲は不明であるが、畑地内には微細片となった土器片が点々と見られることから、丘麓の台地上は広く、古代の生活の場であったと思われ、厚い表土中には縄文時代のみならず古墳時代に至るまでの長い期間の遺物が包含されていると考えられる。

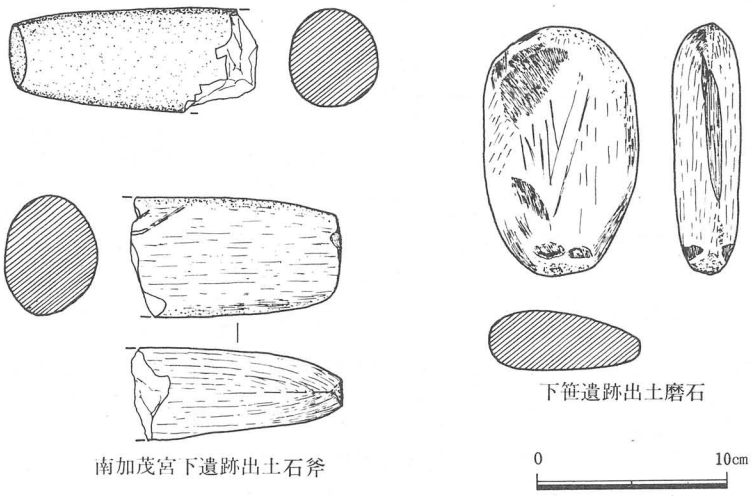


図1.　石器

2.　古墳・横穴

1）高畦古墳（三代）

丘陵の突出する端部の頂上に営まれた古墳で、現今の墓地によって大半が削り取られ、その崖面に竪穴式石室とみられる石組みの状況が露呈している。遺物は知られていない。

２段掘りで、石室の内法は幅 0.7 m深さ 0.5 mである。墳丘は明確ではないが13×15mほどの方墳のようで、残った墳頂部に荒神の祠が祀られている。

大まかに古墳時代前半の古墳である。

2）三代古墳（三代）

字矢ノ尻の丘陵頂部に位置し、斐伊川沿いの展望は特に佳い場所である。昭和47年栗園

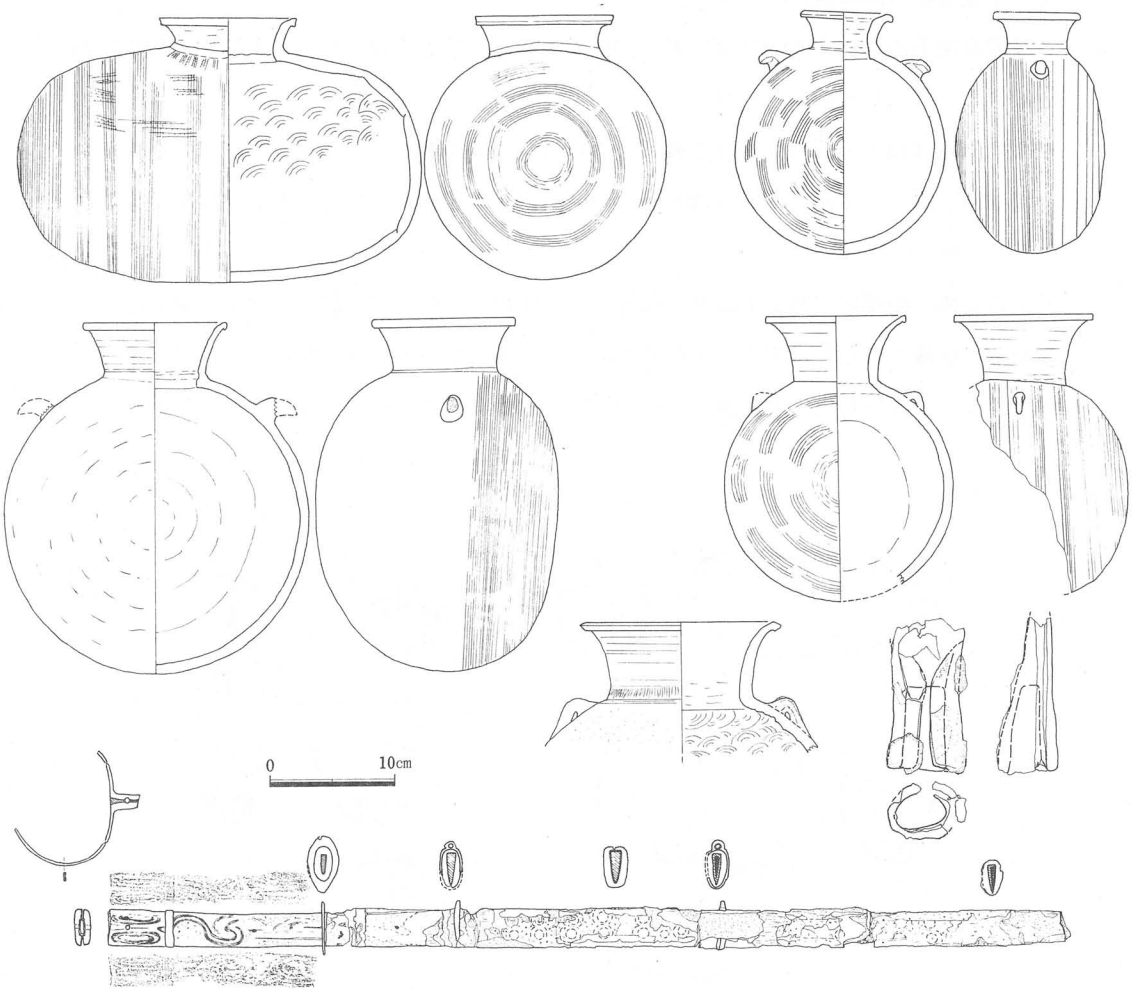


図2.　三代古墳出土遺物(1)

造成中に発見。わからないまま破壊し消滅した。

直径10ｍ以上の円墳で、主体部は長さ４ｍ幅１ｍ位の横穴式石室かと思われるもの。川礫が多数散乱していることから礫床であったとも考えられる。現在も石室の割石石材は現地に置かれている。

出土品も多数あり、須恵器の蓋坏・鼈・高坏・提瓶・横瓶・壺・大甕片などや、鉄器では鉄斧と金銅装の環頭大刀１口が保管されている。（図２・３）

特に大刀は保存が良く、柄には忍冬文が彫られており、倒卵形の鐔は銅製金メッキ、足金具も銅製で、鞘の外装は薄い銅板地に金メッキを施して円形打出し文が２列に並ぶ文様で華美な品である。刀身は平造りで鋒が欠けており、現存長76cmである。

この丘陵上には、永禄までは長谷寺が所在した所であり旧地形は不明であるが、付近にはこの外にも古墳があった所ではなかろうか。

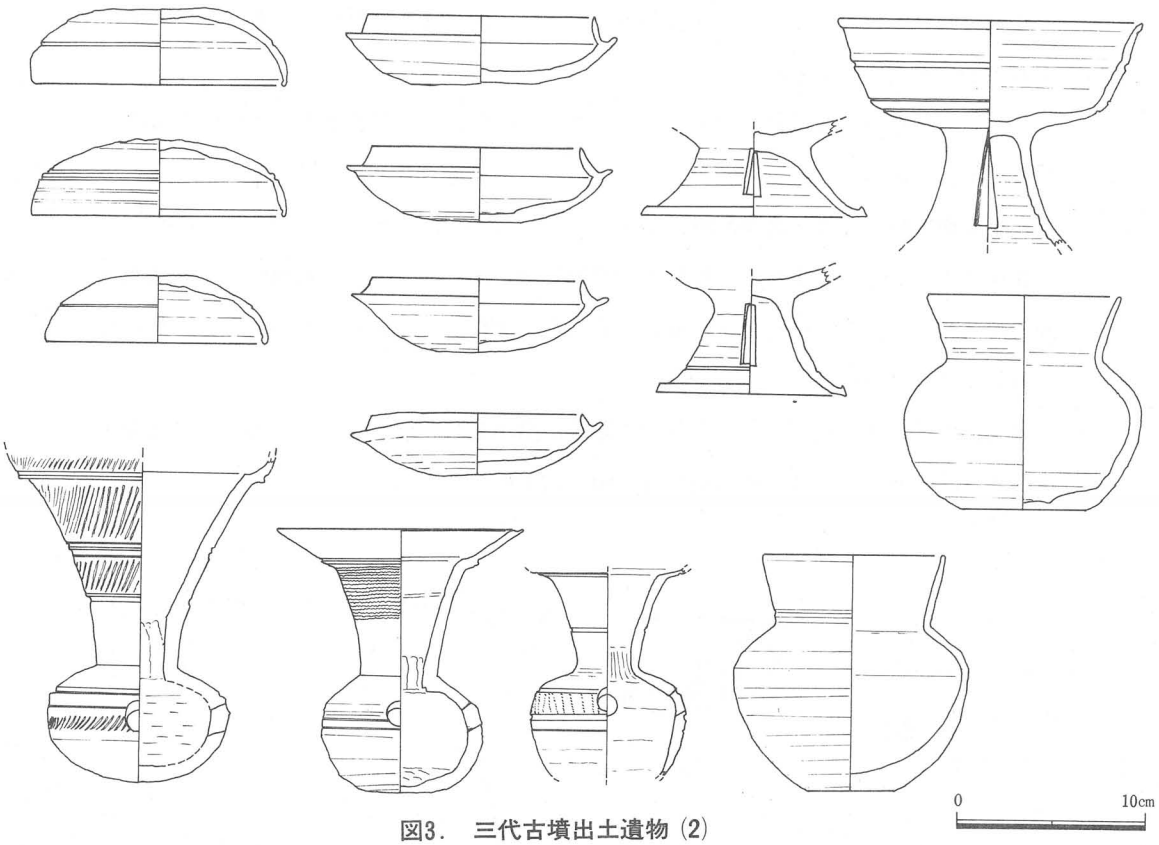


図3.　三代古墳出土遺物（2）

3）宇治寺ノ上古墳群・焼荒神古墳群（宇治）

仁王寺の後背丘陵の頂部付近から北への稜線上に4墓ある。いずれも一辺約10ｍほどの方墳で、頂部に近い2号墳と北端の4号墳には幅広いテラスが周る。1号と2号、3号と4号は互に接しており、或はそれぞれ前方後方墳であるのか判断しかねる様相である。

これから南へ約600ｍで同じ丘陵から東へ張り出す支尾根（焼荒神）先端には、円墳2基が並んで営まれている。1号墳は直径8ｍ高さ1ｍ、2号墳は直径11ｍ高さ1.7ｍ、いずれも幅3ｍのテラスが周っていて整形である。明確な時期は決定し難い。

なおこの南側の尾根にも予想されたが確認できなかった。

これら古墳群は、次に記す三本松古墳群も含めて、西に隣接する神原正面古墳群と関連しており、大古墳群をなすものとみることができる。

4）三本松古墳群（南加茂）

貴船神社の裏山（鶴山）から東の三本松へかけての丘陵上に合計5基の古墳が点在する。東から1～4号墳は三本松にあり、1号墳と3号墳は最も小さく直径6ｍ、最頂部の4号墳は直径15ｍを測り最大である。5号墳は宮の後背丘陵頂部で、愛宕社が古墳の半分以上をカットして祀られている。これから西へかけての丘陵上については不明瞭であった。

これらはいずれも円墳で、周溝は明瞭でない。上記のように神原東部から宇治、そして本群へと一連の古墳群であろう。

これらの被葬者の生活の場は何処かはっきりしないが、丘麓台地上において今後検出される可能性がある。

5）平山横穴群（立原・大東町境）（図4）

加茂町大字立原と大東町大字佐世の境界の丘陵にあったもので、大東町側の丘陵東側崖面の比高約5ｍあたりに暗色土の嵌入がみられ、少なくとも5穴はあったとみられるが、消滅して様式は不明である。

発見は大正8年と伝えられ、人骨や土器等が出土したと伝えられ、一部の土器は現在も保管されている。古墳時代終末期に近い頃に営まれたもの。

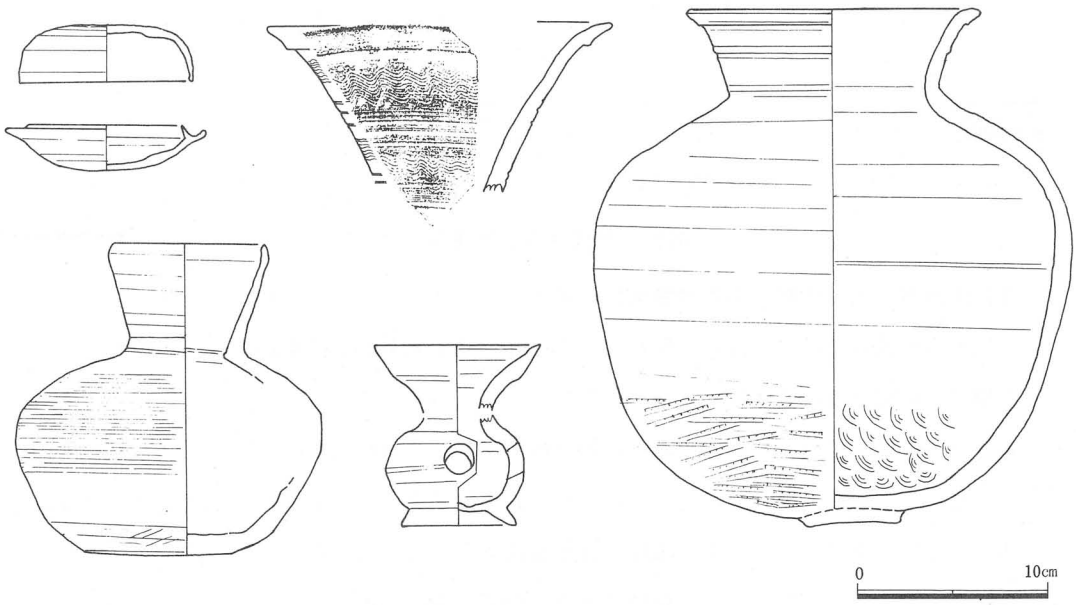


図4．　平山横穴群出土遺物

3．　中世の城砦

1）高麻城跡（大西・加茂中・砂子原・大東町）（図5）

標高195ｍ比高150ｍの山頂にほぼ東西に長い主部を設け、此所から放射状に派生する支尾根や瘤状地など6方向に支郭群を配置し、西へ長く延びる丘陵上には所々に物見曲輪が点在し、南西支尾根端には出城である小門谷砦を設けている。

図5.　高麻城跡縄張図

主郭群：最頂部を削平した主郭はほぼ長方形で25×8～7ｍを測る。そして北東側と西側に腰曲輪を配し、これから北東阻塞群・北郭群・北西郭群・西郭群の主要構成部へと連らなる。主郭の東と南側には極く狭小な帯状曲輪があり、これから南東阻塞部や南郭群へと下る。

西郭群：西の加茂中中心部方向へ長く張り出す主尾根の基部に〝馬乗り馬場〟と呼ぶ三角形の郭があり、ここに井戸跡が認められる。これからさらに２段の郭と腰曲輪があり、尾根を堀切りで切断し、南への支尾根基部からは東西へ各１条の竪堀りを落している。

なおこの堀切りを通過して尾根上には路が西へ連らなり、所々の物見曲輪や尾添上砦、大首の砦跡とみられる丘端を経て、約1.5㎞で加茂の中心集落へと続く。

北郭群：小さな支尾根であるが、三角形をなす郭２段を経て30×14ｍのふくらみのある大きな長方形の〝御殿成〟と呼ぶ郭に至る。この西脇には小さな腰曲輪が付く。また基部上段の郭には井戸跡も認められる。〝御殿成〟は語義通りに居館があった所か否かは不明であるが、何らかの建物があったのであろう。

北西郭群：西と北の郭群の間の高麻谷奥一段低い地点から派生し、強く北に折れ曲って張り出す尾根上に４郭がある。先端郭は櫛免谷に突き出す馬の背状の狭く長い稜上で天然の要害である。その次の郭は折曲部に位置するほぼ三角で約50ｍもの大きな郭で〝蔵の成〟と呼ばれている。ここではかつて炭化米が出土したとも伝えられており、語義通り丘糧の集積も行われたところであろうか。或は居宅跡であろうか。

次に記す高麻谷郭群は、これから中村川方向の西へ分岐している。

高麻谷郭群：高麻谷に入ると左手の丘腹に八幡神を祀る小社があり、これから大堀切〟を経てほぼ稜線沿いに登って行く堀り割り路が上記の〝蔵の成〟の下で屈折して高麻城へと続く。この路に対する構えとして３段の小郭が設けられており、城木戸（虎口）もあったと思われる。

南郭群：南麓の小門谷を直進した奥の詰まりから主郭へ直線に登る路があり、これに沿って小さな曲輪が７段ある。このうち少なくとも３ヵ所には城戸が設けられていたと考えられる。

この小門谷から直進する登路は大西地区の正面にあたるもので、かつて大手筋であったと推察されるが後には高麻谷からの路が主路となり、小門谷の入口部に出城である小門谷砦を築いて補強拡張したものであろう。

北東阻塞群：主郭から大字砂子原そして大東町大字仁和寺へ越す路の峠方向に延びる稜線上に設けたものである。主郭直下に北に向って落下する５条の並列する竪堀りを敷き、尾根基部には左右の谷間へ向って落ちるハの字状の竪堀りが続き、尾根を下ると小さい

堀切りが二重にあって、さらにもう１つの堀切りで切断して狭長な物見郭を１郭設けている。この物見郭には城内唯一の土塁が北側に認められる。そしてこの郭の先端から深く大きい堀切りで尾根筋を完全に遮断して終止している。

南東阻塞群：主郭から南東の大東町大字仁和寺中心部方向へ延びる尾根上にある。主郭直下にはやや大きい１郭があり、下って尾根を深さ６ｍ底幅３ｍの大きな堀切りで切断したもの。さらにその先は岩尾根で幅約１ｍほどの稜線の屏風岩であり、その先端で左右へ竪堀りを落している。

このように高麻城跡を概観すると、特に大東町仁和寺から峠を越し櫛免谷を経て砂子原に通ずる路に対しての北側と、仁和寺方向ともとれる東側について格別の要害阻塞を構えている。南の小門谷は独立孤峰頂部の主郭へ直登する路と、それに備える３ヵ所以上の城戸が想定され大手筋とみられる。

これに対し、北西の加茂中中村から高麻谷を入ると、八幡宮の小祠を経て、比較的低い支丘陵上に〝蔵の成〟等建物の推定される主要郭群があるなど搦手的な性格が考えられる。

また物見曲輪や、尾添上や慶用寺裏山の出張り砦も配置してあり、小門谷には出城を設けるなど城域の構成は西へ向って加茂中中心部直上までの丘陵上1.5×1kmにも及ぶ広大な範囲である。

中世後半期に尼子十旗の中に挙げられるように、出雲国内での主要な典型的山城である。

郭31、竪堀り11、堀切り７、土塁１、城戸跡４、井戸跡２、物見曲輪３ヵ所、出城・砦２ヵ所。

文献では鞍掛氏・大西氏等の城主名があり、他に鞍掛城・大西城などの呼称がみられるが、すべてこの高麻城を指すものかどうかについてはさらに後考に待つものである。

２）小門谷砦跡（大西）

高麻城跡から南に派生する支丘陵の先端に位置し、大字大西地区を全望する立地であり高麻城への南からの登路入口部に相当している。

丘陵を深く大きい堀切りで切断して丘端部を独立させ、南に下降する斜面に６段10郭の中小の曲輪を配置したものである。麓には小字地名中屋敷・中井・竹ノ内・下前などの居宅区域が想定される。

３）近松城跡（近松）（図６）

標高70ｍ比高25ｍの丘陵頂部にほぼ長方形をなす主郭をおき、これを囲むように６郭と堀を巡らす。

南が搦手で井戸谷に接し、北は赤川南岸の水田地帯に面して大手とみられる。

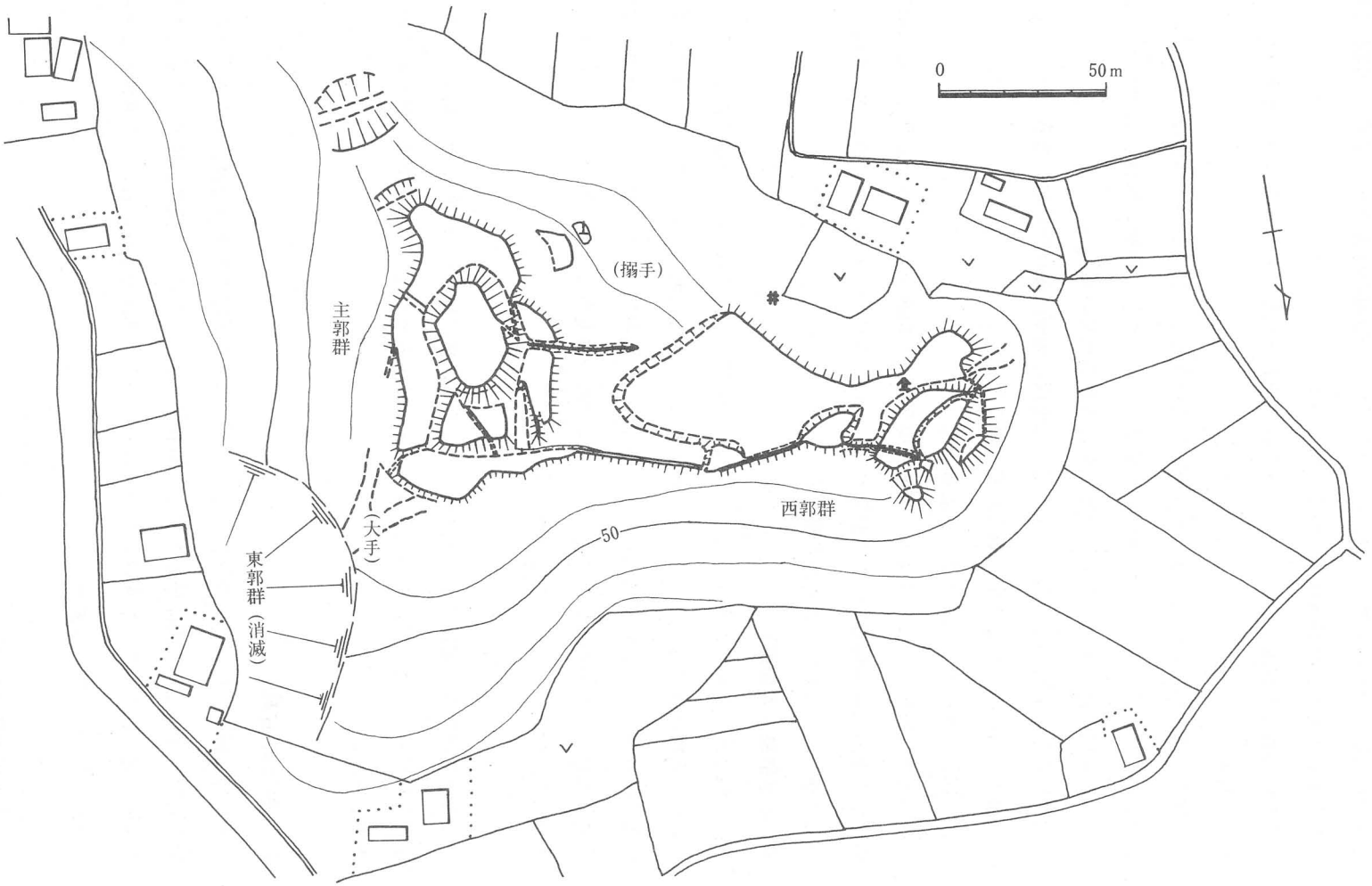


図6.　近松城跡

西側丘陵端には別の郭群があり、南に面して中～小５郭が配置され、北側は一段低く広大な削平面の郭が井戸谷へ接してつくられている。

この西郭群と主郭部との間はフラットな自然地表を残しており、北に対する虎（かざし）とみられる。

主郭から東南への丘陵は大きく削り取られて現存しないが、かつては数段の削平面があったと言われ、西と同じように東郭群が築かれていたものと推察される。

南への尾根筋は大小二つの堀切りで完全に切断されている。

城域は大略150×200ｍであり、赤川沿いに東西の展望に優れた丘城である。伝えによると立原氏の居城で、永禄年中の城であるとのこと。

合計16郭、土塁４、堀切り２を算える。

なお大字立原妙栄寺裏の丘陵上に大仙権現を祀る平坦面があり、展望も良く、近松城に関与する東の物見曲輪であったと思われる。同様に近松神社上の丘頂も西の物見曲輪であったとみられ、今日では愛宕社が祀られている。

４）小谷砦跡（南加茂）

国道54号線、大東への農免道路への分岐点の上に張り出す低丘陵の突端にある砦で、深さ４ｍの大堀切りで独立させている。国道敷設によって西側は大きく削り去られており、現在では３段の小削平面が残っているのみである。堀切りから上へ丘に登ると貴船神社裏に至る地形で、関係の居住区域はおそらくこの宮の前方あたりかと想像される。中世末の地頭山内氏の拠るところであろうか。

このほか近世末の記録によると「南加茂字会下の麓に地頭山内四郎広道の館があったと伝えられている」としている。現地は丘腹・畑地・墓地となっている所かと思われるが、明確ではない。

４．　中世の古墓

古墓は石塔に着目して調査を行ったが、そのほとんどは中世末～近世初頭とみられるキマチ石製の五輪塔や宝篋印塔であった。前者は主として墓標に、後者は供養塔に造立されたものと思われる。しかし在銘のものは皆無であり、細部の手法に若干の差異があるもののほとんどが同じ様式であるといえよう。

１）大上横古墓（三代）

岡集落佐藤家（大上）の脇にある同家墓地内には五輪塔片が散在し、さらに中世後期か

ら近世初期に至る数種の宝篋印塔がある。

特に、あまり大きくない宝篋印塔の１基から永代供養の銘文を刻んだ鏡１面が封納されているのが発見された。この鏡銘に永禄６年の年記があり、その造立が窺がわれる貴重な石塔であり、省階式で隅飾突起には施文がみられない様式である。

因みにこの佐藤氏は地頭下笠氏の臣と伝えている。

２）本岡田墓地の石塔（図７）

旧い家系と伝えられる岡田氏本家の墓地にある石塔群で、五輪塔は６基分以上が一隅に集積されている。墓地の最後列には龕入の宝篋印塔が立ち並び壮観である。

龕入独塔２基、龕入双塔１基、龕のないもの４基があり、これらの宝篋印塔はいずれも対をなす構成で置かれて供養塔であることを示している。

石材はキマチ石で、笠の隅飾突起に忍冬文を、塔身には梵字を刻む整形のものもある。

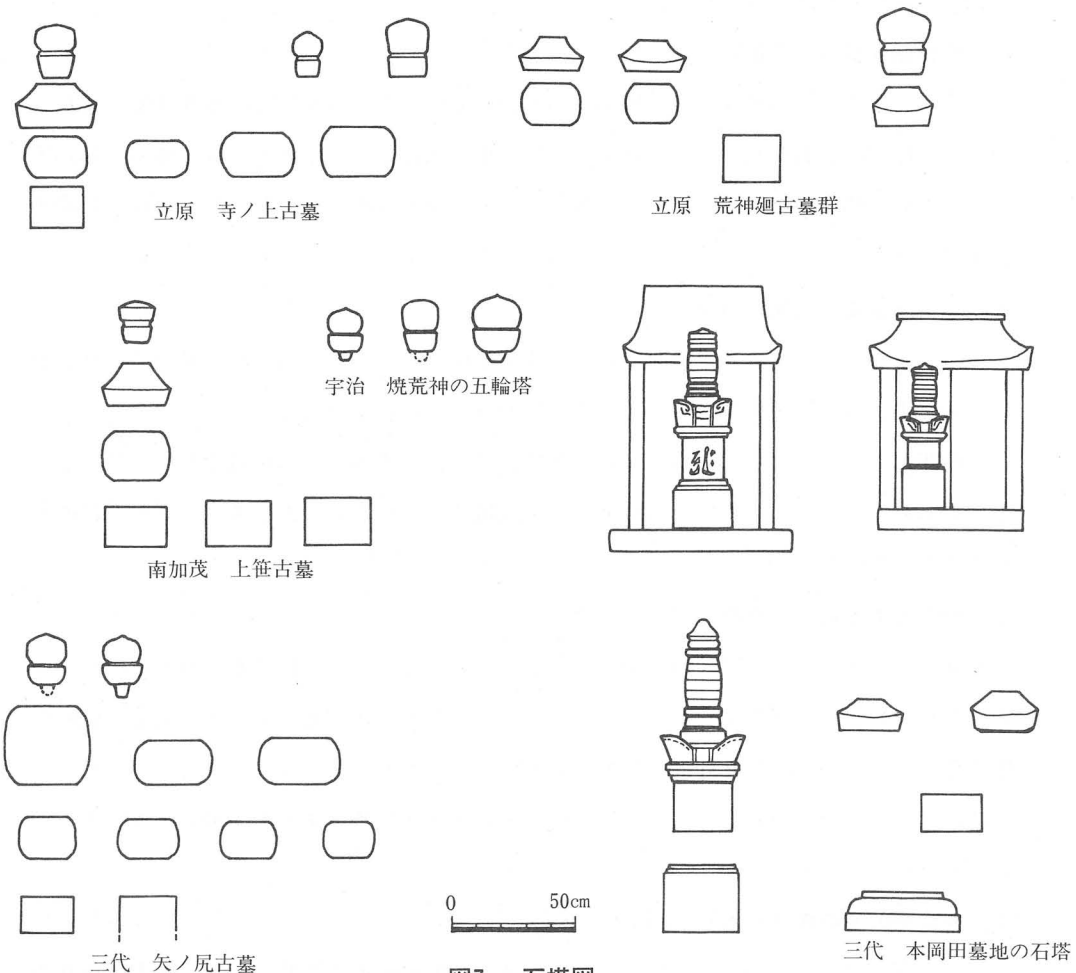


図7.　石塔図

いずれも九輪はやや整った製作であるが、省略があり笠の軒は薄く省階式であることなど近世初頭の色彩が強いものといえよう。

また五輪塔についても笠の軒反りが明瞭であり、ほぼ宝篋印塔と時代差はないものと思われる。

3）矢ノ尻古墓（三代）（図７）

長谷寺向いの丘陵上にあり、近世初期までは長谷寺があったところと伝える所である。墓地の一隅に五輪塔片が山積されている。宝珠の数からして13基以上分であり、数点は古い形状かと思われる宝珠がある。

長谷寺は元禄年中現在地に移ったと伝えられることから、それまでの旧寺域内の墓地であったと想像される。なおこの極く近くに三代古墳がある。

このほか現在の長谷寺の墓地にも宝篋印塔片が点在するが、省略された様式であり、より新しい段階の石塔とみられる。

4）荒神廻古墓群（立原）（図７）

大東町大字佐世との境界の丘陵端部にあり、現墓地の間に五輪塔片が点在する。また一隅には川原石の集石墓もあり、これを現地では中世立原氏一族の墓地と称し斎っている。しかし立原氏関係者にしては粗略にすぎるのではなかろうか。いずれにしても中世以降の墓地群である。

5）寺ノ上古墓（立原）（図７）

妙栄寺裏の丘麓部を通る道路脇に五輪塔片が集積されている。およそ４基分であり、製作様式に中世末から近世初頭へかけて新旧の形態がみられる。

道路開削によって出土したものとのことで、付近には本屋敷・門屋敷などの屋号や小字地名もあることから、中世以降の中心的居宅区域であったことが推定され、それらに関わる古墓ではなかろうか。

6）小門谷の五輪塔（大西）

高麻城の出城である小門谷砦の中の畑地と墓地との２ヵ所に五輪塔が見られる。復元すると１ｍを越す高さとなり、当地としてはやや大型の部に属する。キマチ石製で宝珠の製作は整っているが、やはり近世初頭頃まで時代の降るものであろう。

麓には○○屋敷・中井・竹ノ内など中世以来の居住区域を示す家号・地名がまとまっている所である。

7）焼荒神の五輪塔（宇治）（図７）

仁王寺裏山丘陵の南の支丘先端にあり、丘陵上の焼荒神古墳２基の丘麓である。現在畑地となっている所からかつて出土したもので、現在は宝珠のみ６個を集めて祀っている。

やはり近世初頭頃であろうか。付近にはまだ何程かの古墓があったとのことである。

4. その他の遺跡

1）高麻神社跡（三代）

高見集落の中ほどにある独立山陵（高麻山・高塚）の南西斜面中腹に狭い社地跡がある。裾から急な石段が敷かれ、端整な形の高麻山を仰ぎ拝むもので、古代以来の形態と思われる。『出雲国風土記』記載の高麻山は北大西の高麻山ではなく、これを指すのであろうか。方位はよいが里程や高さは合致しない。

2）亀山石積塚（宇治）

宇能遅神社後背丘陵（亀山）の頂部に川原礫を集積した塚がある。一見一字一石経塚のようであるがはっきりしない。祭祀に関与するものであろう。なおこれに隣接してNHK加茂中継塔が建てられている。

3）小宮谷製鉄跡（南加茂）

小宮谷のほぼ奥まる所、わずかな小谷地形の中段にあったと思われる。現在では圃場整備によって削られており、その崖面約３ｍにわたって厚さ50cmほどの鉄滓や焼土の堆積層が見られる。かつてここから吹子の羽口が採取されている。鉄滓には微細な木炭片を含むものが多く、椀形滓もあることから鍛冶跡と推定される。遺構は大半が削り去られているものと思われる。

III　神原地区遺跡補遺

沢平横穴群（図８～11）

発見：平成元年９月、町営危険物処理場の工事中に発見。直ちに緊急発掘調査を行ったもの。丘陵の南面と北面に横穴が並んでいたものと推定された。しかしＮ2～4号は工事でほとんど削滅していた。

Ｎ１号穴：この地方には稀な平入りで、2.8×2.2ｍ高さ1.1ｍの玄室内に2体以上の人骨が残っていた。依頼して鑑定中であるが、一部逆向きの骨があることから、重ね合せた２組の合計４人が葬られていたのではないかと見られている。副葬品は鉄鏃２本があったのみで、土器等は全く認められなかった。羨門は石積みで閉塞されていた。

Ｎ2号～Ｎ4号穴：中心となる玄室部分はすべて工事によって失われており、わずかに前庭の一部分が残っていて横穴が存在したことが判ったもの。

Ｎ２号穴の羨道奥付近とみられる位置から工事中に須恵の大壺や提瓶がほぼ完形で出

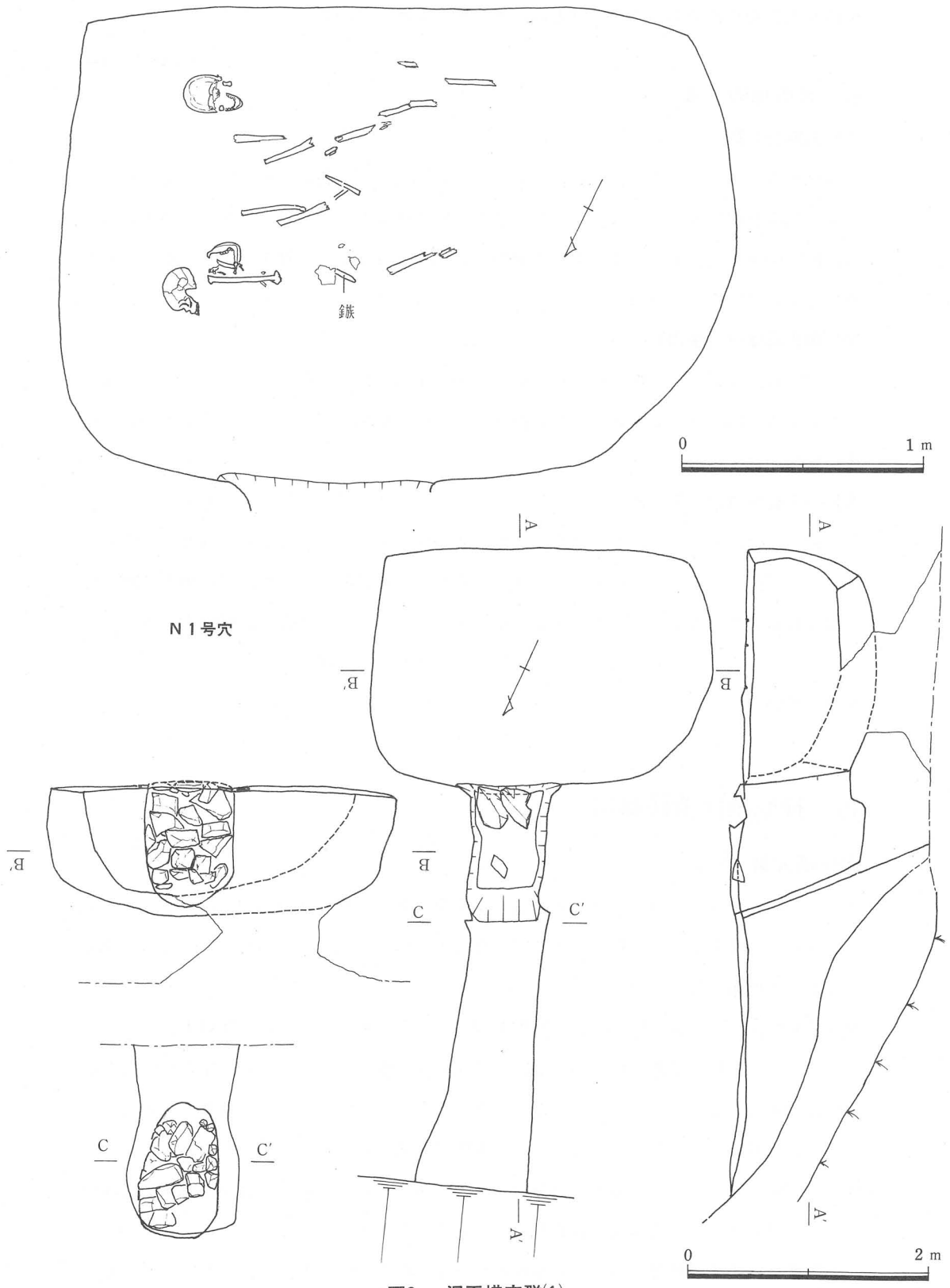


図8.　沢平横穴群(1)

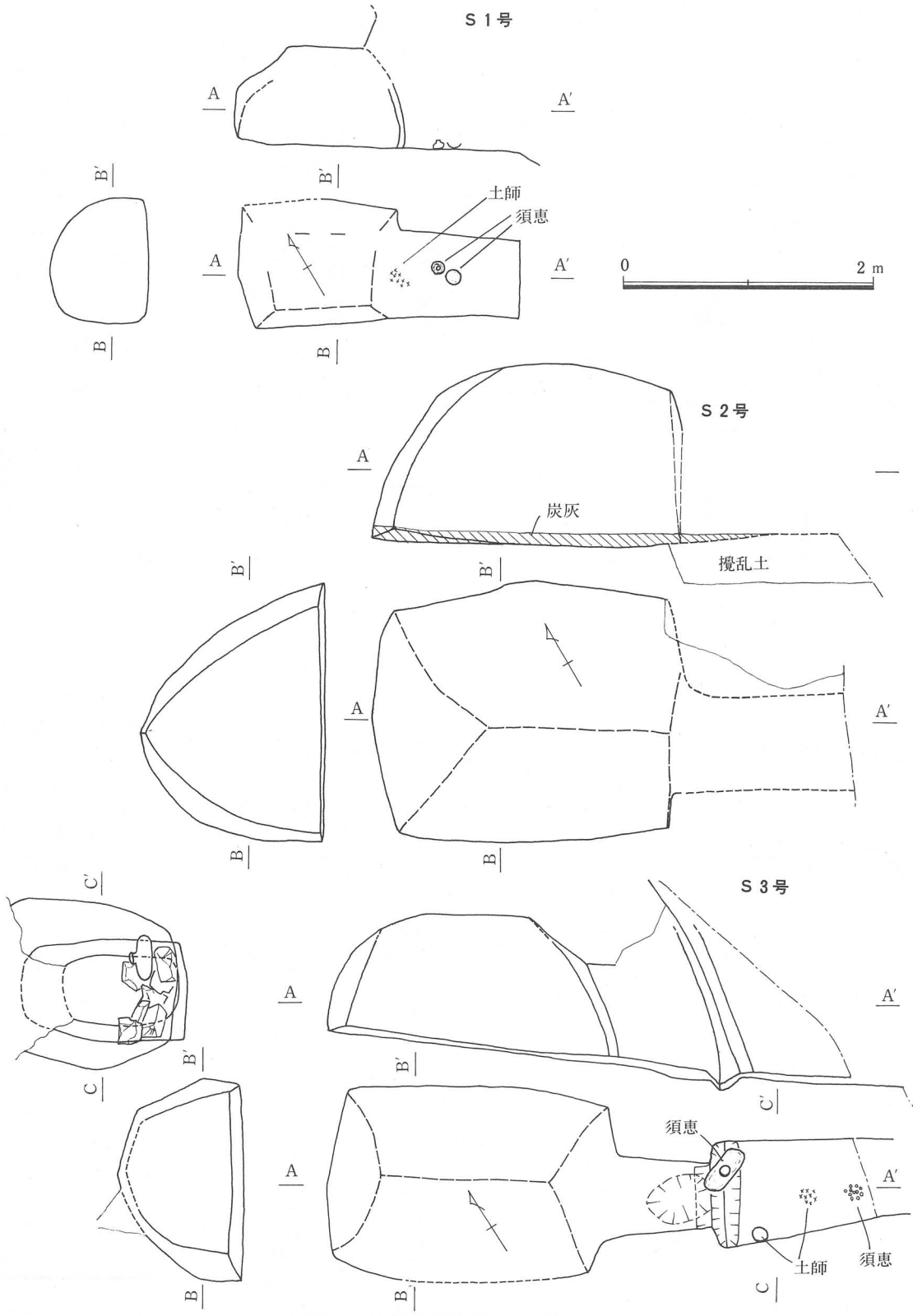
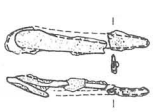
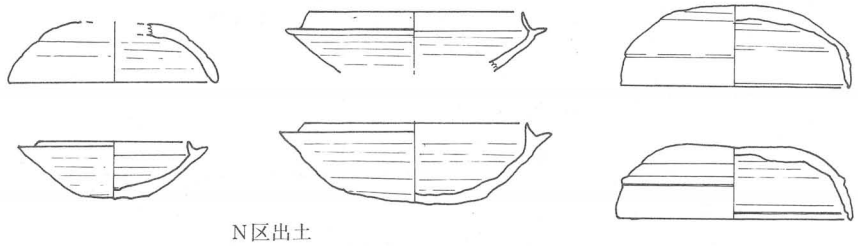


図9.　沢平横穴群(2)

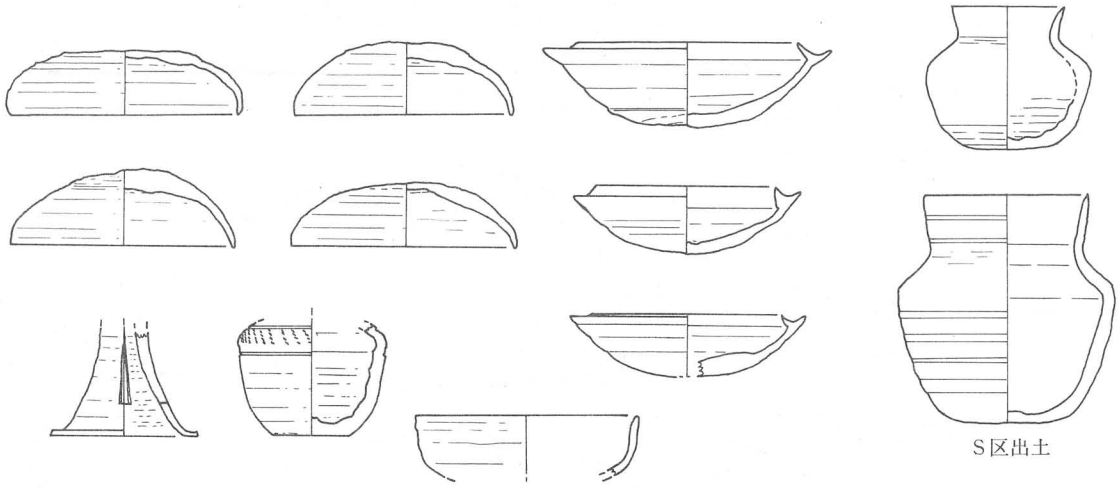


鏃　N１号出土

刀子　S区出土

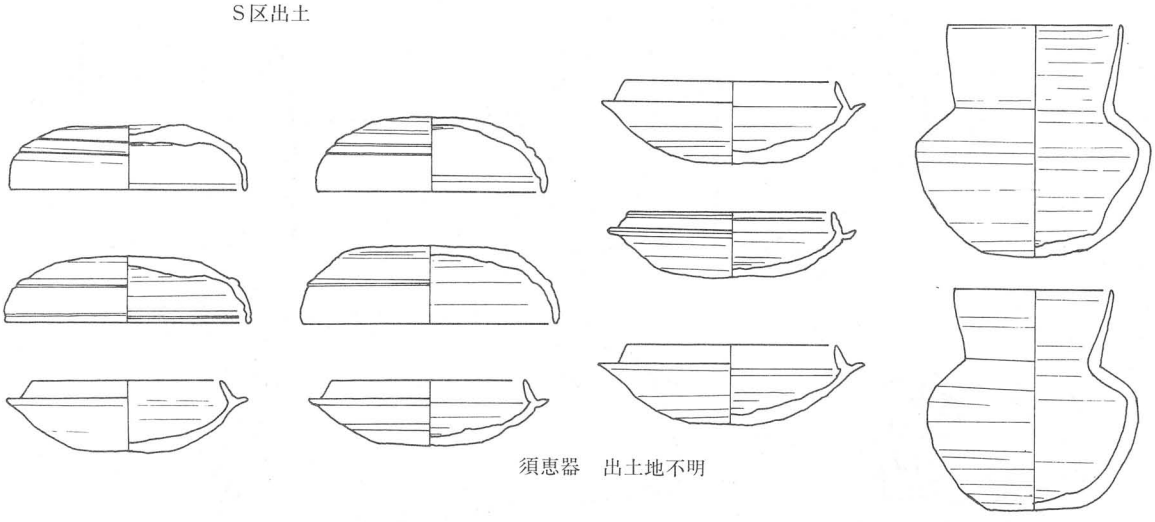


N区出土

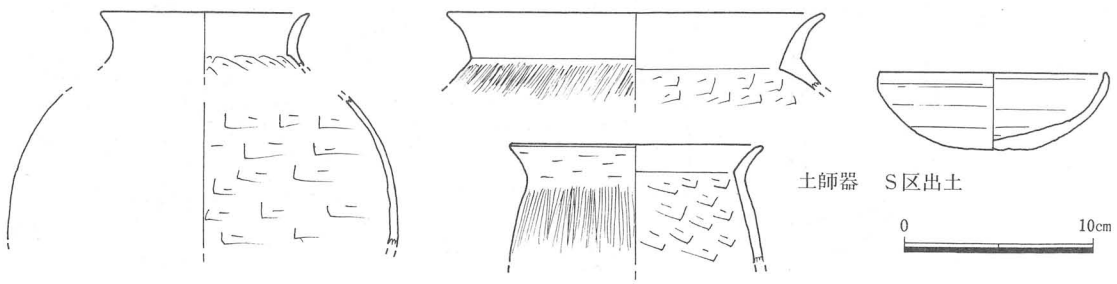


S区出土

S区出土



須恵器　出土地不明



土師器　S区出土

0　10cm

図10．沢平横穴群出土遺物(1)

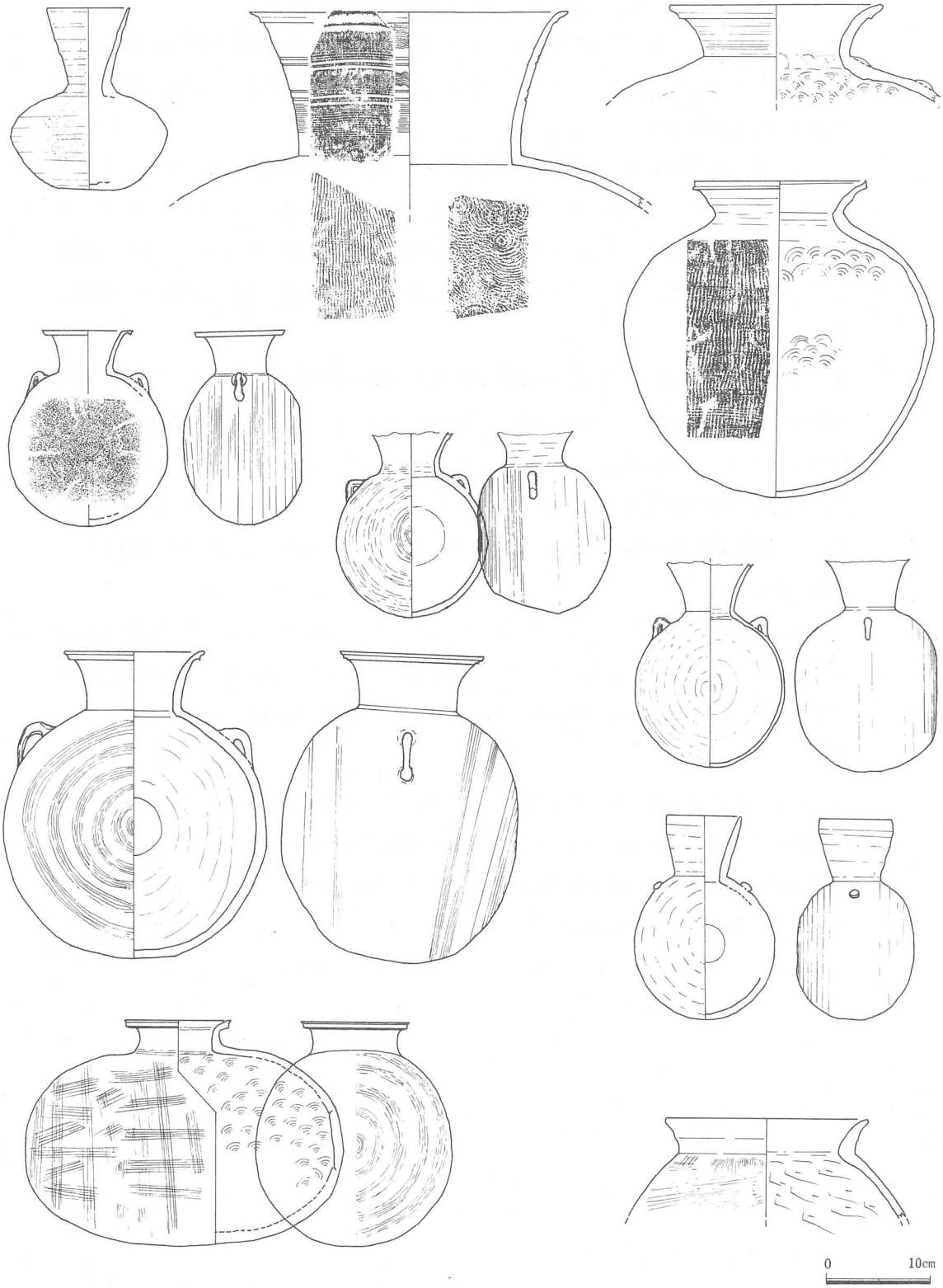


図11 . 沢平横穴群出土遺物(2)

土している。これらはともに編年Ⅳ期に相当し、７世紀の器である。

Ｓ１号穴：三角テント妻入りで片袖様式であり、玄室は1.2×1.0ｍで高さ0.7ｍの極く小形である。副葬された土器は多く、須恵の壺２、提瓶１、蓋坏の蓋２と土師器の坏１などがあり、須恵器編年のⅣ期にあたる。

Ｓ２号穴：この横穴群中最も大きいもので玄室は2.2×2.0ｍ高さ1.5ｍの三角テント妻入り型である。このＳ２号穴は早く開口したものか、近世頃木炭窯に転用されており、玄室内に厚く炭灰が堆積し、しかもＳ１号穴との間の側壁も崩壊しており、Ｓ１号穴は煙道として利用されていたようである。前庭部は炭焼きのため深く掘削してあり、遺物は明らかでない。

Ｓ３号穴：ドーム型に近い三角テント妻入り様式で、2.2×1.2ｍ高さ1.0ｍの玄室で、羨門の閉塞石積みが若干残っていた。床面は特に傾斜が強く、羨道入口部には閉塞のための抉り込みがつくられていた。

玄室内には顕著な遺物は見当らなかったが、閉塞石積みの基部に横瓶と土師器の杯が置かれ、前庭部にも土師坏の破損したものや須恵器の細片があった。いずれも編年上のⅣ期である。

その他：工事で攪乱した土の中には多くの土器片があり、関係者の言によれば、尾根上の表土中にも多くの土器片があったとのことである。このうちには須恵器の大形甕２体分以上が認められることから、尾根上において何らかの祭祀が行われていたとも考えられる。

このように沢平横穴群はその中心部分は工事によって消滅したが、付近の丘腹には未発見のものも予想され、丘陵そのものが７世紀頃の墓陵であったことが判る。

なお下神原や赤川対岸の大竹地内では古くから横穴群が数多く知られており、加茂町内では横穴の分布が特に密な地帯である。

神原地区遺跡一覧表

—昭和62年度調査より再録—

遺跡番号	名称	種別	所在地	現況	概要	文献
24	神原正面遺跡	古墳他	字正面	公園		3、
－1	正面北遺跡	〃	〃	〃	A・C・E区方墳16基　最大は5号墳木棺直葬　C10－1号は箱式石棺 C区12弥生台状墓　B区溝状遺構弥生土器 中央公園造成で消滅	
－2	正面南古墳群	古墳群	〃	〃	1～4号方墳木棺直葬　土師　須恵 中央公園造成で消滅	
				山林	5～8号方墳　未掘	
3	神原神社古墳	古墳	字松井原	河岸	方墳？辺35m位　竪穴式石室に割竹形木棺　景初三年銘鏡　鎗　鎌　鍬　鎌　斧　鉇　土師器多数 消滅移築	3、2、6
19	宿米塚古墳	古墳		雑	円墳？18×12m　頂部に五輪塔片集積	3、2、5
6	川子谷古墳群	古墳群	字川子谷	山林	A群　1・2号方墳？箱式石棺消滅 3号7×7m未掘 B群　1・4号方墳　2・3号円墳 1号発掘調査　箱式石棺 男女重葬　顔面朱　副葬品なし	3、2
20	草枕古墳	古墳	字草枕	山林	小型異形竪穴式石室残存 墳丘破損	3
46	下神原西岡古墳群	古墳群	神原字西岡	山林	方墳2基　円墳？1基 2号墳頂蓋石散乱	
4	菅代横穴群	横穴群	字菅代	堤防	須恵器　人骨　刀（紛失）　消滅	1、3、2
5	土器廻横穴群	横穴群	字土器廻	山・畑	須恵器　消滅	3、2
42	砂遺跡	散布地	字砂803	畑	土師器片　須恵器片	
50	松ノ木遺跡	散布地	字松ノ木	畑	かって土器・砥石が出土した	
39	乗越遺跡	散布地	字乗越	畑・山	土師器　丹塗もあり　消滅	
13	後ノ廻経塚	経塚	字後ノ廻	山林	石積室　四耳壺　湖州鏡	2、8
43	出古墓	古墓	字土居	山林	五輪塔片集積	
40	桜古墓	古墓	字桜	山林	五輪塔片20基ぐらい	
41	竹ノ内古墓	古墓	字竹ノ内	墓地	五輪塔片2基？	
18	下神原五輪塔遺跡	古墓	字京塚149 150	山林	発掘調査　五輪塔片集積　消滅	2
44	土居城跡	城砦	字土居	山林	5～6郭と腰曲輪・大堀切	2
12	大茶臼山城跡	城砦	字大茶臼	山林	簡易な小削平面　物見郭	2、5、9
36	神原正面砦跡	城砦	字正面	公園	3段の郭　堀切　出砦か	
38	高城城跡	城砦	字高城	荒畑	〝馬場〟ありと伝う　完全消滅	

小字地名一覧

——『加茂町誌』による——

大字立原

中川原　以後田　才ノ前　論田　酒田　土手外　土手根　講武　井手ヨリ南　道ヨリ西
土手ヨリ南　池ノ端　井手口　池田　井手ヨリ北　道ヨリ西　井手ヨリ南　八戸前
漆ノ目　ヘバリ廻　地現堂　八戸屋敷　八戸　高畑　屋敷余り　早稲田　早稲田道ノ下
カナリ田　山ノ神　山ノ神廻　ナビサ　石畑　丸谷　荒田　釿谷　芋ヶ山　西ヶ廻
坊主田　垣主内　高丸　松ヶ廻　横枕　坂口屋敷余り　蔵本　屋敷　荒神下　代官家下
宮ノ下　元寺屋敷　寺屋敷　門屋敷　門屋敷上　寺ノ上　寺ウ子　坂口　元見徳寺屋敷
客広　客ノ脇　寺ノ脇

大字近松

畑田　土手根　竹添　論田　正南　向正南　城山　向山　下前　輪ノ内　越前　下前
脇田　後田　前田　三通　羽雁田　西樫　殿田　角屋敷　東屋敷　鍛冶屋　中代　小前
田島　西屋敷　滝戸　棚田　縄手添　カワラケメン　中川　休石　ユカラ田　ソリ田
四斗代　五斗代　八斗代　漆ヘン　東天場　天場　金代　下金代　廻田　上前田　井戸谷
王寺　以後田　樋尻　来海　小前　宮山　宮ノ子　寺ウ子　西廻　才ノ奥　才ノ神　堤廻
板屋垣　太才　駄才　白井　蔵畔　大井手　エ田　寺谷　四反田　小麦畑　高畦　小田
平廻　赤　赤曽　長畑　ヨツク廻　漆廻　保田　坊田　狼谷　中曽根　ヒナタ廻　横屋田
八ツ口　大曲　柳坪　ツレノケ　小槙山　イヤ谷　八ッウ子

大字大西

川田　客ノ木　横土手　東土手　金代　宮ノ前　脇田　元宮　屋敷　大西後　大西　西前
竹ノ下　外畑ケ　堀　紺屋垣内　平道添　平　平ラ　白井　木ノ下　薦垣　西ノ原　善中
井手ノ上　的場　土中敷　井ノ戸　田渕　小原　松ノ木　角田　沢田　小原畑田　樋ノ口
加茂境　木ノ上　藤内　猿合　金穴　鉄穴　中尾　称連ノ木　子レノ木小廻　下与一谷
下与一谷奥　二又　三石田　与一谷　奥与一谷　与一谷小廻　京田
米山　松ノ前　黒谷沖　藤曲り　鍵田　新市　道場　矢田尻　上縄手添　上畑ヶ田　奥砂
畑ヶ田　下畑ヶ田　吉井原　来福沖　来福　前田　竹内　井ノ尻　寺ノ上　新屋敷　脇田
中屋敷　上屋敷　中井　小門　年床　小以後　大以後　大林　高麻　荒神堀　根古山
隠紺屋　釜石　寺田　下谷　鍛冶屋　寺内　長廻　堂廻　清水尻　池ノ尻　角畑　立田
道千原　川田　乗光寺前　加茂境

大字南加茂

舟場　カキ田　金川　見堂寺　椿原　向原　橋元沖　橋本　下ハシモト　下橋元　塚田
フジヤ　大畑　フジヤ畦　下コモヤ　下中津　上中津　上コモヤ　下カジノメ　東飯ノ木
西飯ノ木　飯ノ木　上カジノメ　井ノ戸　ゴザ免　繁永　東　広屋　上土井　北土井
下土井　神ヤシキ　出店　下笹　上笹　会下前　オクノマエ　寺ノ前　卍　内垣内　深坪
道下　新屋　岩田道ノ上　ビシャモン堂　長サコ尻　岸田　ゴゼ坂　ゴゼ坂上　三本松
三本松上　宮ノ後　鶴山　宮の前　横屋マエ　小谷　小谷鼻　乗越　當政　会下　奥会下
古堤　彼岸田　五俵尻　法津田　法津田頭　堂床　人次　寺上　鈩谷　長サコ　松ヶ廻
新上坂　井手領　明ヶ廻　寺田　奥寺田　イモホリ田　下皆明寺　上皆明寺　皆明寺
清水廻　清水ヶ谷　才ノ神東平　才ノ神　細工田　高畦　枇把田　雲田林　下羽根尾
大ハネオバナ　大羽根尾　三月田　漆ノ目　持田　下小林　上小林　上小林尻　下用田
招田　立合廻　枝次　松ヶ谷　南廻　右ノ廻　村次奥　五反田　槙ヶ谷　餅田　五反田東
新反田　円道寺　円道寺奥　小宮谷　寺平　小田　小宮谷　小宮谷東谷　小宮谷西ノ谷
早焼廻　善正谷　奥宮谷　二つ岩　夫婦岩　ビシャモン田　数ヶ畑　数ヶ畑尻　イヤ谷
一俵尻　イヤ谷機谷　イヤ谷奥　カゴ立場　三代内　三代内廻　才ノ神　アハタ

大字宇治

下祝原　中祝原　上祝原　祝原　角田　祝原山根　下ノ廻　上サコ　亀山　宮ノ上
深坪　向山　堤廻　松廻　シリ免　一日田　樋ノ口　紙屋ヶ市　細工田　宮ノ前　舟場
舟渡　元宮　宮ノ前　三久保田　仲　上ヶ屋敷　紙屋　土手崎　奈良垣内　内代　田中
西垣内　寺ノ下　寺屋敷　高ノ目　ソリ田　紙屋ケ市　寺ノ上　立平　上ノ段　土井
上屋敷　蔵本　仲ノ下　上屋敷　五来田　六俵尻　名伝　明伝名　名田谷　焼山　焼荒神
惣田　三田谷　小廻　山ノ神田　大成　五平田　カワラケメン　ケカチ　沢田　才明寺谷
池ノ谷　才明寺　桃木谷　池ノ上　立平　ブリ田　延野境　才明寺前　松井原　一久保
木ビキ田　赤川田　久保マエ　コゴワセ　長サコマエ　笠貫　古川　沖町　持田　京田
才貫田　五反場　鳥貫田　仲田　上羽皿　川除　砂田　フジカセ

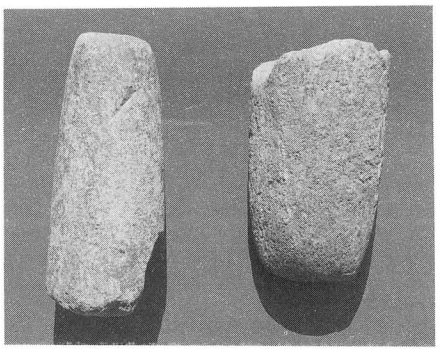
大字神原

牛ヶ谷　川平　梅ノ木谷　下ノサコ尻　下ノサコ　堀越　草枕　草枕上ノサコ　六歩一廻
六歩一　大廻　大廻下　白石　山部　堤ザコ
見崎　横山後　横山　原ノ前　古川　岡ノ前　岡ノ後　西岡　八口　八口社土地　京塚
宇茅　菅代　沢平　姫原　菅代鼻　大茶臼　五歩ノ木廻　土器廻　土器廻尻　番正面

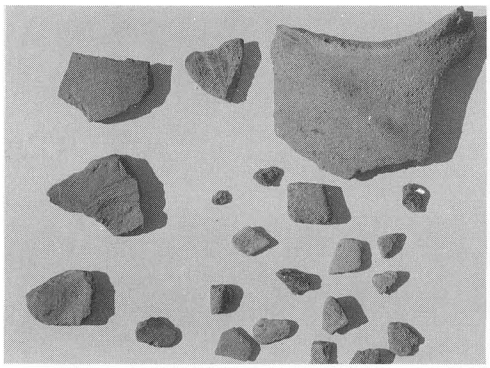
大田　上新田　才京　松ノ木　松ノ木小ザコ　柳ヶ廻　松ノ木尻　川子谷　寿多久　花咲
二又　後サコ尻　後ノ廻　後ノ廻小ザコ　土井　城ノ越　福田　深田　深田下　名子田
中原　内堀　下五反田　五反田　蓮池　上ノ原　下り　筆ノ前　上五反田　土手頭　宮
宮西　宮ノ前　真光院　酒屋　茅原　森ノ下　森本　苗田　寺中　上地中　六百尻
コンヤ　紺ヤマエ　寺中マエ　地中マエ　上　中　佃　山本　堂原　久保　起木　松ノ前
学院　正面　正面オク　正面向　松崎　慶宅寺　光円寺　下砂　上砂　砂ノ畦　永山
長山　宮田　相保廻　奥田　雀川原　硯田　丸廻　上タタミ田　タタミ田　桜　林ノ後
堤廻　堤廻尻　堤ザコオク　深坪　廻福田　のりこし　高土　高城　上高城　上高城小廻
奥田　高城ザコ　五斗蒔田　上五斗マキ　五斗マキ向　下五斗マキ

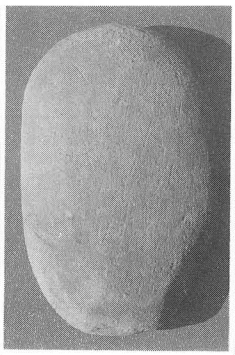
大字三代

見崎　大津　中原　小原　川新田　長縄　馬渡　角田　向新田　岡　岡ノマエ　岡下
竹ノ下　大堀　西岡　小畑　枝廻　楓垣　姫原　大西　乙井手　森ノ下　大立ヤブ　大津
大津前　大津下　クラノ前　段部　段部前　池ノ沖　砂樋尻　畑田　宮ノ馬場　宮ノ前
桜峠　宮ノ東　庭袖　西尾谷　下久保　池谷尻　池谷　高見　後川　松田　投田　段原
古来田　卯ノ廻尻　卯ノサコ　大久保　持田　大成　井ノ尻　音部　音部前　音部廻
モクケ小路　樋ノ尻　矢ノ尻　寺ノ下　寺内　後田　寺ウネ　川平　境谷　松ノ木　菅沢
桂子廻　蛙廻　塚田　三月田　夕目谷　池ノ谷　乗越　禿ノ前　サッペ　物狂　ウバケ廻
鉄穴地　侍ザコ　池尻　宇治西（ウジンザイ）　ドングリ廻　槙ヶ廻　赤根田　高麻山
タカサ　高塚　高塚川付　陶久田　布田　市ノ坪　草井谷　京田　三廻田　吉谷西平
吉谷　別所谷　折坂　細田　カカ廻

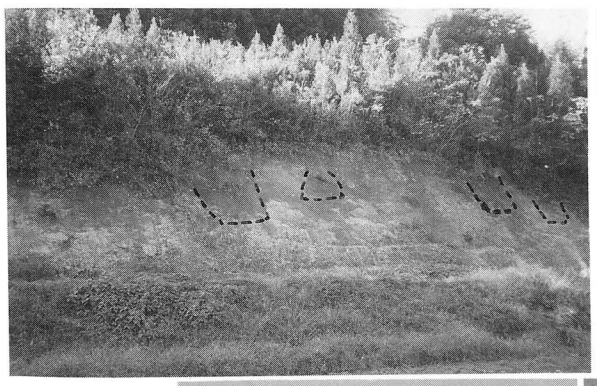


南加茂宮下遺跡（南加茂）

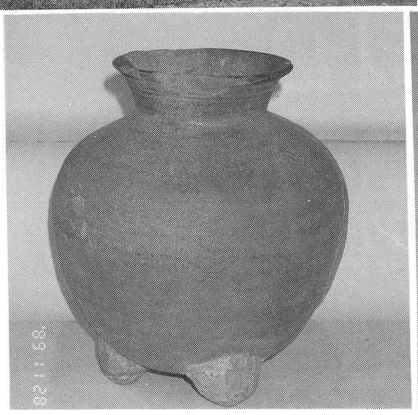


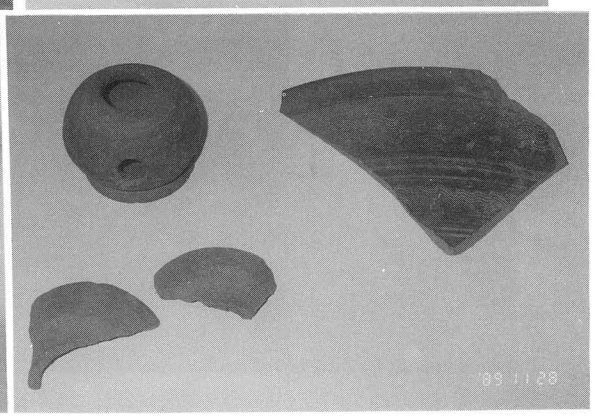


下笹遺跡（南加茂）

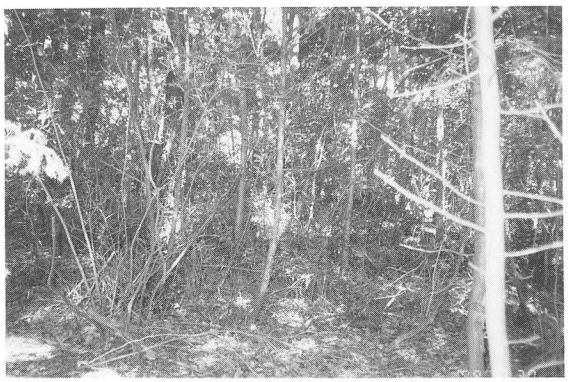


平山横穴群（立原）





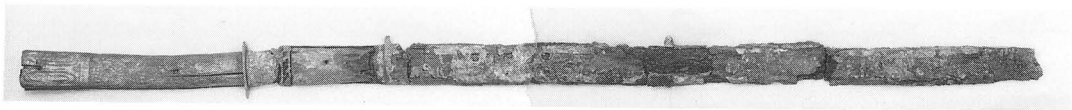
三代古墳（三代）

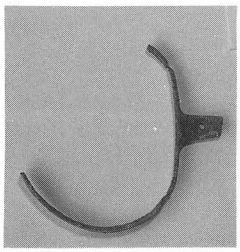


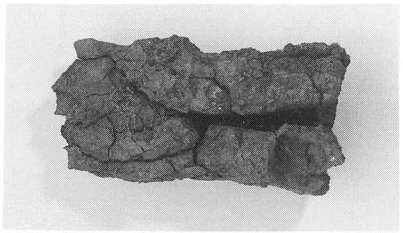
焼荒神古墳群（宇治）

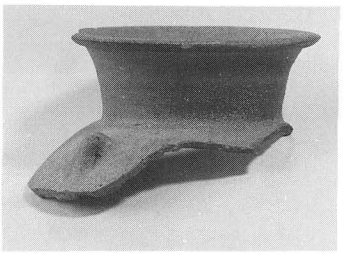
高畦古墳（三代）

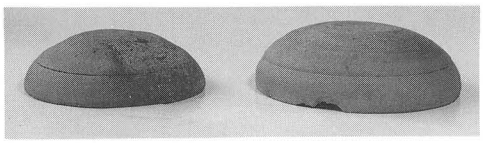
三本松古墳群（南加茂）

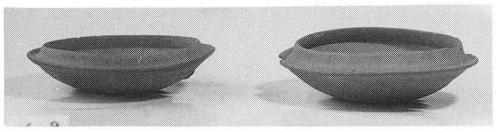


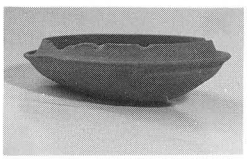


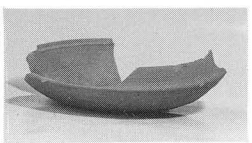


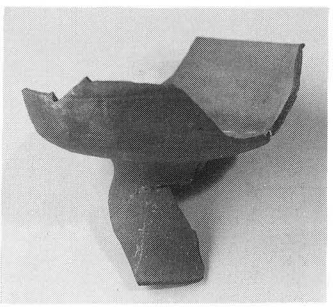


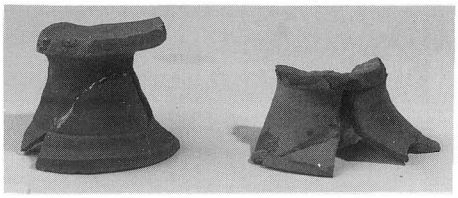


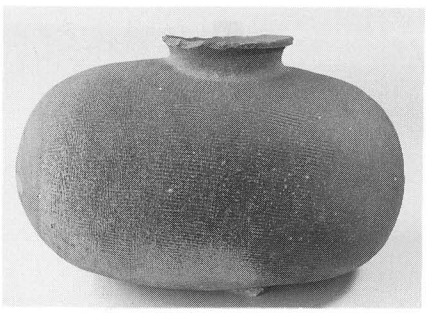


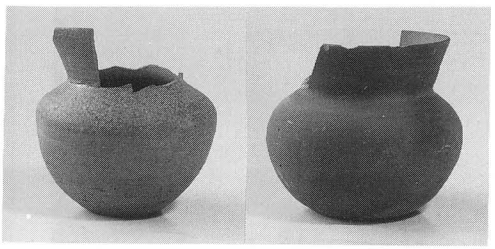




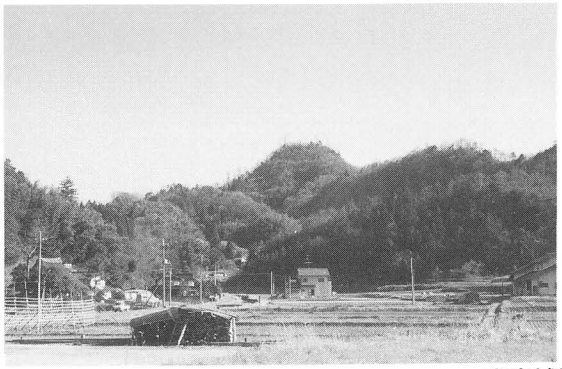




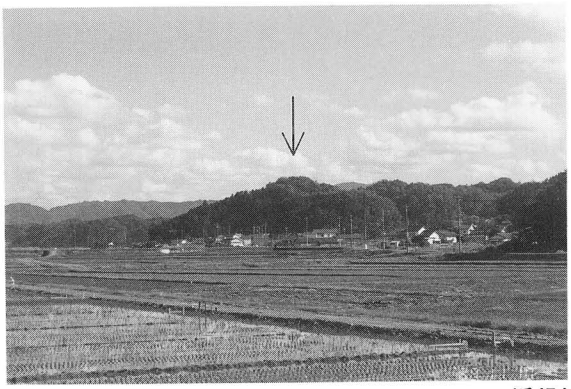
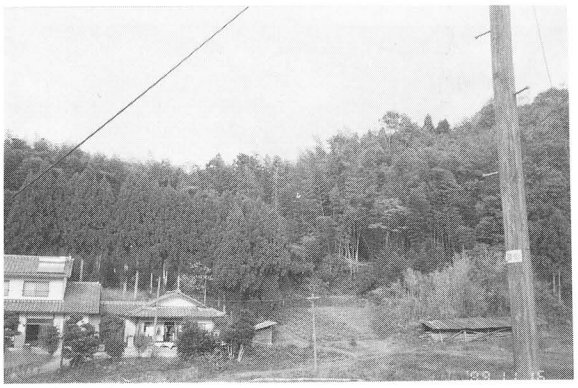




三代古墳出土遺物（舟木義信氏保管）

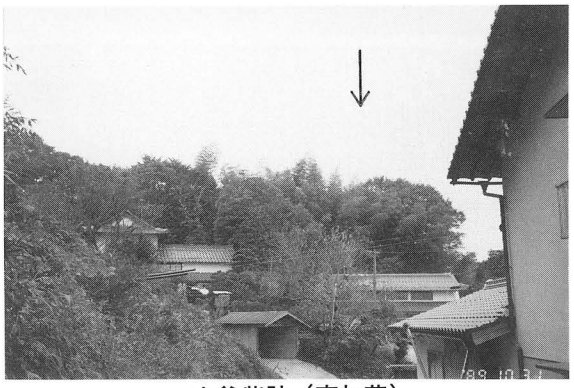


高麻城跡（大西）

近松城跡（近松）

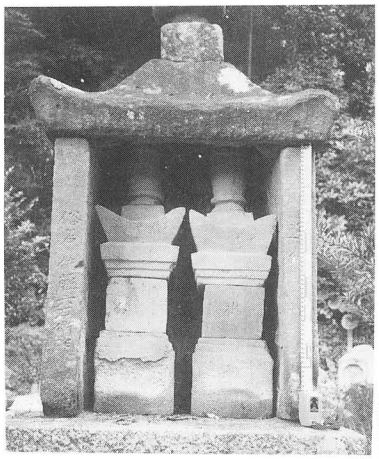
小門谷砦跡（大西）



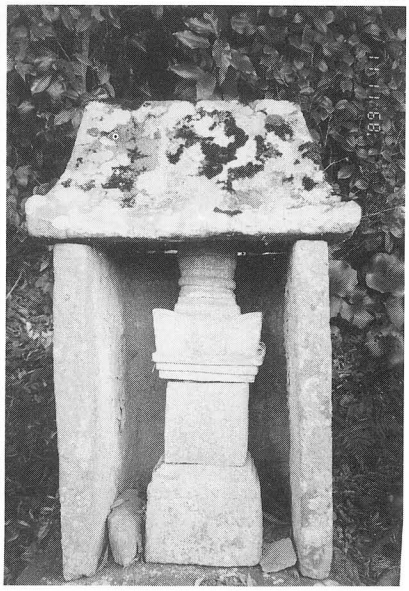
小谷砦跡（南加茂）

寺ノ上砦跡（立原）

長谷寺上ヘ砦跡（三代）



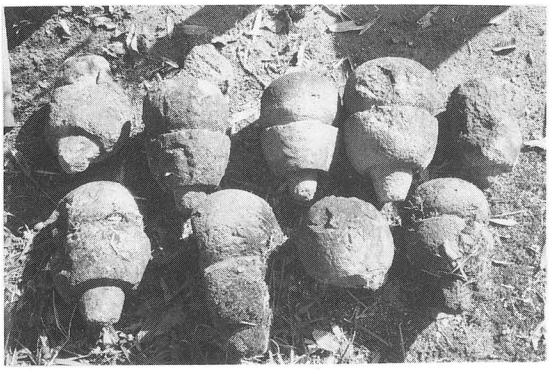
大上横古墓（三代）



本岡田墓地の石塔（三代）

寺ノ上古墓（立原）

荒神廻古墓群（立原）

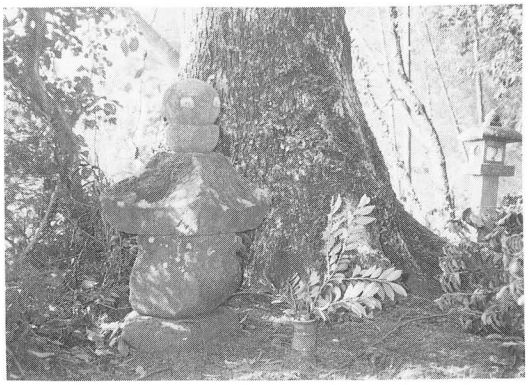


矢ノ尻古墓（三代）

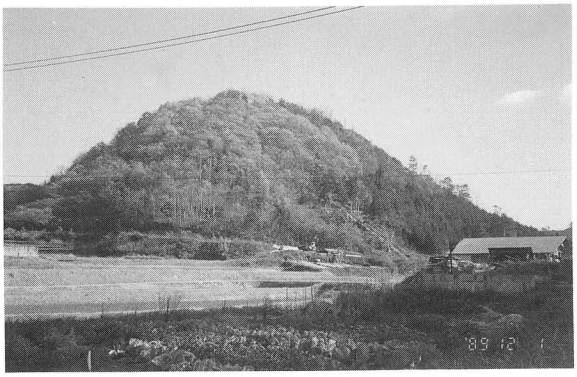
上笹古墓（南加茂）

焼荒神の五輪塔（宇治）

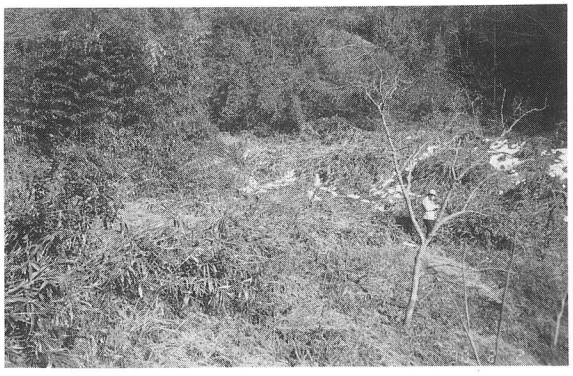
長谷寺古墓（三代）



小門谷の五輪塔（大西）



高麻神社跡（三代）



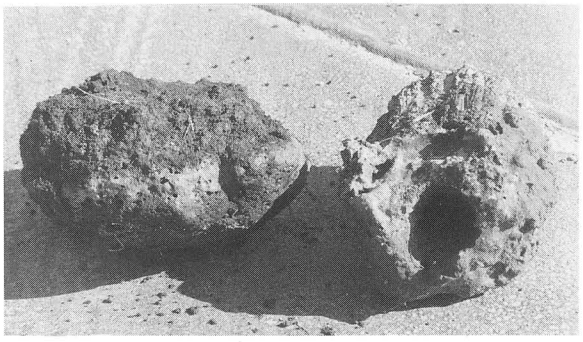
伝乗光寺跡（大西）

伝立原館跡（立原）

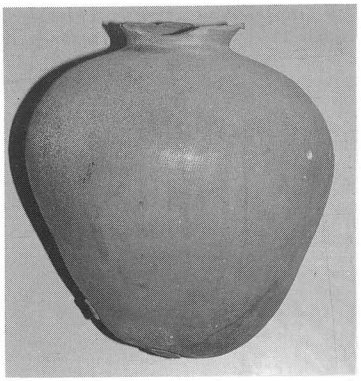
会下居館跡（南加茂）

亀山石積塚（宇治）

八ッ畦古戦場跡　（近松）



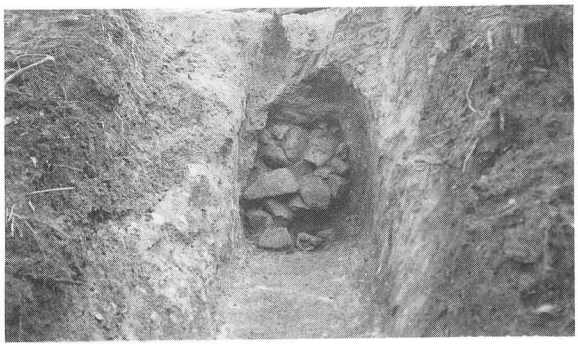
小宮谷製鉄跡（南加茂）



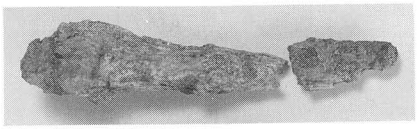
長谷寺蔵大甕　（出土地不明）

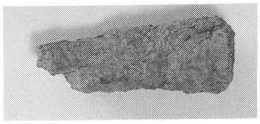
高麻城跡より南大西方面を望む

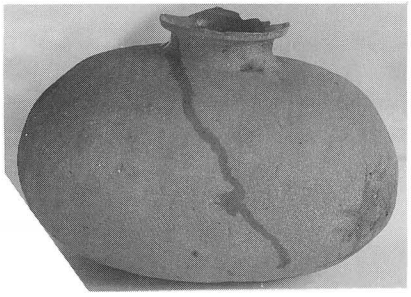
(N１閉塞)

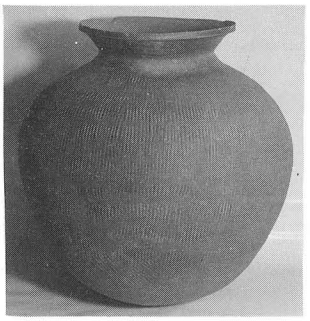


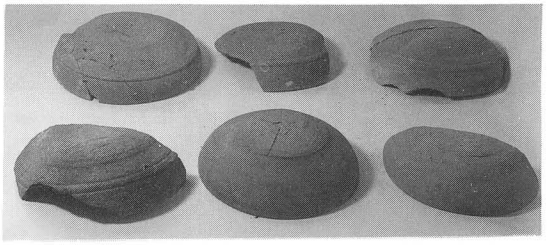
(N１玄室)

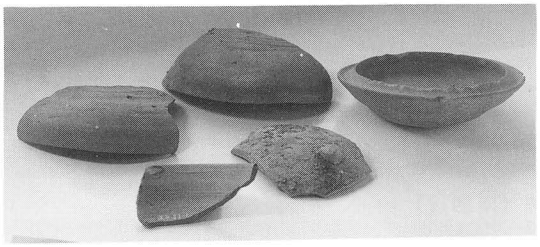


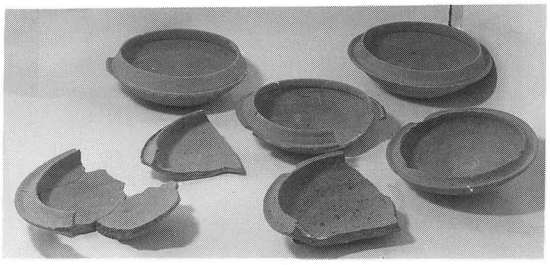


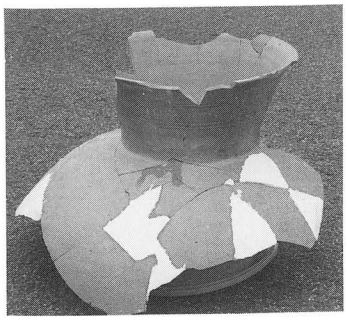


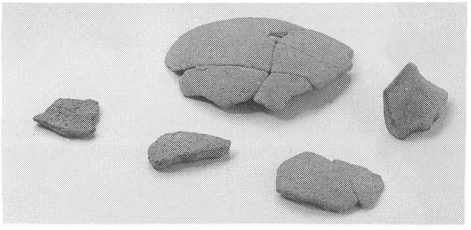


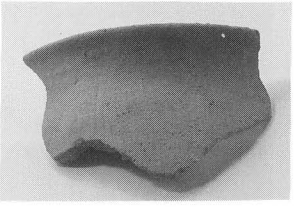


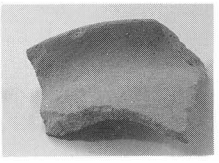


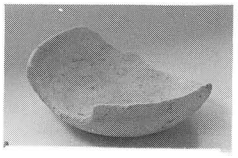












沢平横穴群

(出土遺物)

詳細分布調査報告書
加茂町の遺跡
—赤川以南—

平成2年3月

発行　加茂町教育委員会
島根県大原郡加茂町大字加茂中

印刷　㈲木次印刷
島根県飯石郡三刀屋町三刀屋